



リブナビプラス
Library Navigator

院生のための
学術情報探し方ガイド

CONTENTS

目次

- 1 発行にあたって
- 2 **1 学術情報収集の基礎知識**
- 4 **2 横断的に探す**
- 9 **トピックス-1** 検索エンジン
- 10 **コラム①** 数理系学術情報の検索方法について
- 11 **3 海外の論文・記事・情報を探す**
- 16 **コラム②** 生活健康科学プログラムにおける文献検索
- 17 **4 国内の論文・記事・情報を探す**
- 23 **コラム③** 「連鎖する知識」の楽しみ
- 24 **5 電子書籍を使う**
- 26 **コラム④** 『学術論文の技法』の思い出
- 27 **6 資料の入手方法1**
- 28 **コラム⑤** 図書館でのひととき
- 29 **7 資料の入手方法2**
- 32 **トピックス-2** 学位論文の探し方
- 33 **コラム⑥** 「先行研究が無い」ということ
- 34 **8 文献の利用方法と管理**
- 37 **9 附属図書館について**
- 38 **コラム⑦** 蔵書カードを想う
- 39 文献情報等探索ツール一覧表
- 43 参考文献

このガイドに掲載されている情報は、特に記載がないものは2015年1月30日時点での情報を基に作成しています。データベースの内容、Webサイトの情報、その他の情報については、変わる場合もあります。悪しからずご了承ください。

発行にあたって

「リブナビプラスー院生のための学術情報探し方ガイド」をお届けします。2013年から作成している「リブナビー図書館使いこなしガイドー」は放送大学の図書館サービスを大まかに知ることができる利用案内ですが、このガイドでは、放送大学での研究活動における学術情報の調査・収集の方法を中心に編成しております。本学大学院生の研究活動への一助となることを願い、作成いたしました。

現在、インターネット上には、たくさんの便利なWebサイトがあります。一昔前までは、わからない言葉を調べる場合は分厚い辞書を調べました。今では、Wikipediaなどインターネット上のWebサイトで簡単に知ることができます。また、GoogleやYahoo!といった検索エンジンを使えば、いろいろな情報を無料で知ることができます。

他方で、放送大学を含め全世界の大学では教育研究活動のために電子ブック、電子ジャーナル、データベースといった学術情報に関する電子的資料を有料で契約しています。これは、何故でしょうか？

実は、インターネット上の情報には責任所在がはっきりしないものが多く、そのまま研究活動に活用するには適当ではない情報が多いことと、学術情報に関するものは有料であることが多いからです。たとえば、Wikipediaの場合、確かに多様な情報が掲載されており、概要を知るには役立つこともあると思いますが、執筆者が明記されていなかったり、内容も自由に編集が可能になっていたり、非公式な情報もあります。本学では、『ジャパンナレッジLib』というWeb版の辞書・事典が利用できます(P.20参照)。論文執筆する際には、情報の質や信頼性が高い辞書・事典を活用することをお奨めします。

このガイドでは、学生の皆さんが研究活動を進めていくときに、自宅からも有益な情報を活用できるよう、インターネット上の情報探索ツール(Webサイト)を中心に紹介しています。紹介する内容の選定にあたっては、放送大学の各コースの先生方にも協力いただきました。また、研究活動を進めていくときのアドバイスや経験談などもコラムとして先生方から寄稿していただいています。

このガイドが、学術情報の海へ漕ぎ出そうとする学生諸氏の羅針盤の一つとなれば幸いです。

放送大学附属図書館

学術情報収集の基礎知識

学術情報の種類

附属図書館では学習や研究を進める際に必要なさまざまな学術情報を利用できるようにしています。図1に利用できる学術情報の全体図を示しました。

本学学生の皆さんが研究テーマに関係する先行研究を探す時は、図書(単行書など)だけでなく雑誌(ジャーナル)を利用することも多くなるでしょう。それぞれの性格の違いを表1にまとめます。なお、このガイドでは「図書」、「雑誌」は学術的な目的で刊行される専門書や学術雑誌を指すものとします。

表1 図書と雑誌

	図書	雑誌
発行形態	多くの場合、単独で発行される(シリーズ(全集)も有り)タイトルは一冊ごとに異なることが多い	継続的に終期を決めずに刊行される。すべて同じタイトルで、続き番号(巻号)を併せて発行される。
内容	一冊を通して体系的にまとまった内容とするものが多い	著者が異なる複数の論文・記事を収録。速報的、最新の成果
図書館での扱い方	内容によって分類し、番号(請求番号)をつけている	内容での分類はしない。一定期間が過ぎると複数の巻号をまとめて製本し、番号をつける

一般的には、速報性に優れる雑誌は最新の研究成果を個別的に知るのに適しているのに対し、図書はあるテーマに関して評価の定まった研究成果をまとめて知るのに適しています。また、これらをデジタル(電子)化してインターネット上で流通するようにしたのが電子ブックや電子ジャーナルです。

研究成果の主要な発表方法がどちらの形態かは研究分野等によっても異なり、主に図書を中心に発表される分野もあれば、雑誌に発表される最新成果が重要な分野もあります。

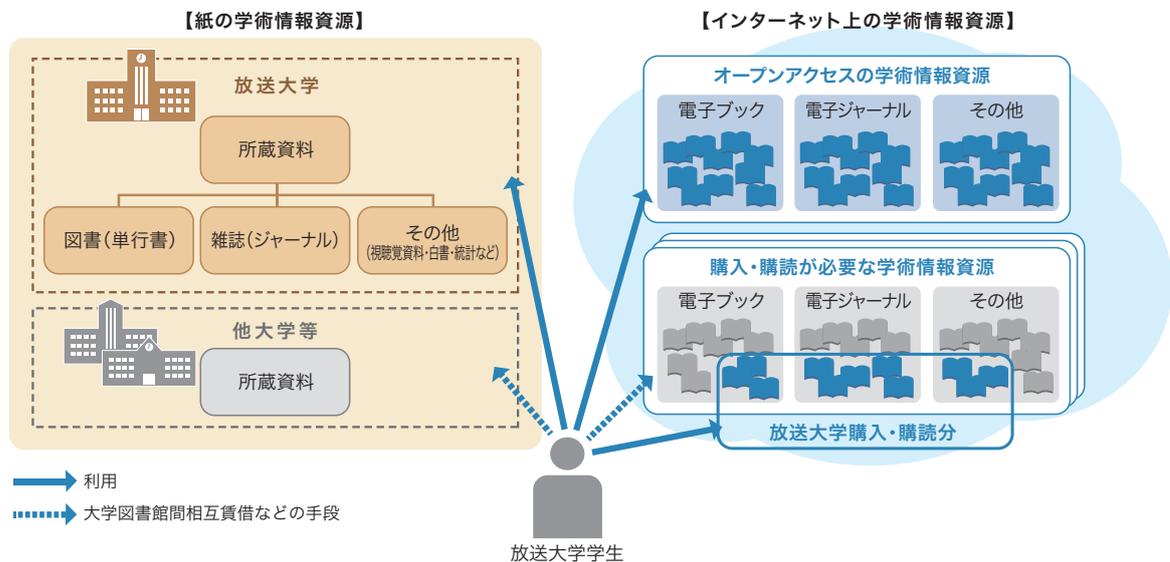
学術情報の種類により探し方が異なりますので、参考文献の記載方法などを見て、それが図書/電子ブックか雑誌/電子ジャーナルか判断できるようになるとよいでしょう。

表2 参考文献の記述例

参考文献 (図書の例)	参考文献 (雑誌の例)
Neisser, U. (1967). <u>Cognitive psychology</u> . (著者) (出版年) (タイトル) New York: Appleton-Century-Crofts. (出版社)	Neisser, U. (1974). <u>Cognitive Psychology</u> . <u>Science</u> , (著者) (出版年) (論文タイトル) (雑誌タイトル) 183, 402-403. (巻号, 掲載ページ)

先行研究の文献を調査するには、文献データベースを利用したり、ある文献の参考文献から遡って探したりします。文献データベースは、論文のタイトル、著者、抄録などの情報を集めたもので、複数の分野をカバーする汎用のものから個別の分野に特化したものまでさまざまです。このガイドで代表的なものをご紹介します。

図1 附属図書館の提供する様々な学術情報



インターネット上の学術情報の使い方

【大学購入・購読分】

多くの電子ブックや電子ジャーナルは出版社や学会等のWebサイトから有料で提供されています。附属図書館では、これらのうちから購入や購読の契約をすることにより、本学学生が本文を読むことができるようにしています。附属図書館が購入・購読している学術情報は放送大学キャンパス内(全国の学習センターおよび附属図書館内)で利用できます。

Point 1 自宅からの利用は「リモートアクセス」で

多くの資料は自宅などキャンパス外でも利用することができます。その際は、放送大学の構成員であること(=利用資格があること)を認証するため「リモートアクセス」でログインして利用します。ログインIDとパスワードは、システムWAKABAやキャンパスネットワークと共通です。ログインすると利用可能な電子ジャーナル・電子ブック等の一覧が表示されますので、利用したいものを選択してください。

リモートアクセスを使うと、電子ブックや電子ジャーナル本文の他、データベース等の利用でも利点があります。ご自宅でのご利用は、まず使い始めにログインすることを強くおすすめします。

※リモートアクセスが認められていないものもあります。それらはキャンパス内のPCでご覧ください。



附属図書館トップページのこのバナーからログイン

Point 2 ルールを守って利用してください

- ・個人の調査・研究を目的とする場合に限り、文書・画像のダウンロードやプリントアウトができます。ただし、大量のデータのダウンロードは認められていません。プログラム等を利用したシステムティック(自動的)な処理はもちらんのこと、1件ずつでも大量にダウンロードすることは、契約上禁止されています。
- ・ダウンロードしたデータは個人的な目的のために保存することはできますが、データの改編や第三者への再配布・蓄積は著作権・知的所有権を侵害する行為として禁止されています。
- ・上記を遵守しない場合は契約違反となり、当該出版社で提供する全ての電子ジャーナルの放送大学へのサービスが停止されることがあります。

【購入・購読外のもの】

附属図書館が購入・購読契約を行っていないものでも、個人負担で購入できる場合があります。また、他大学等から取り寄せできることもあるので、このガイドを参考に調べてみてください。

【オープンアクセス】

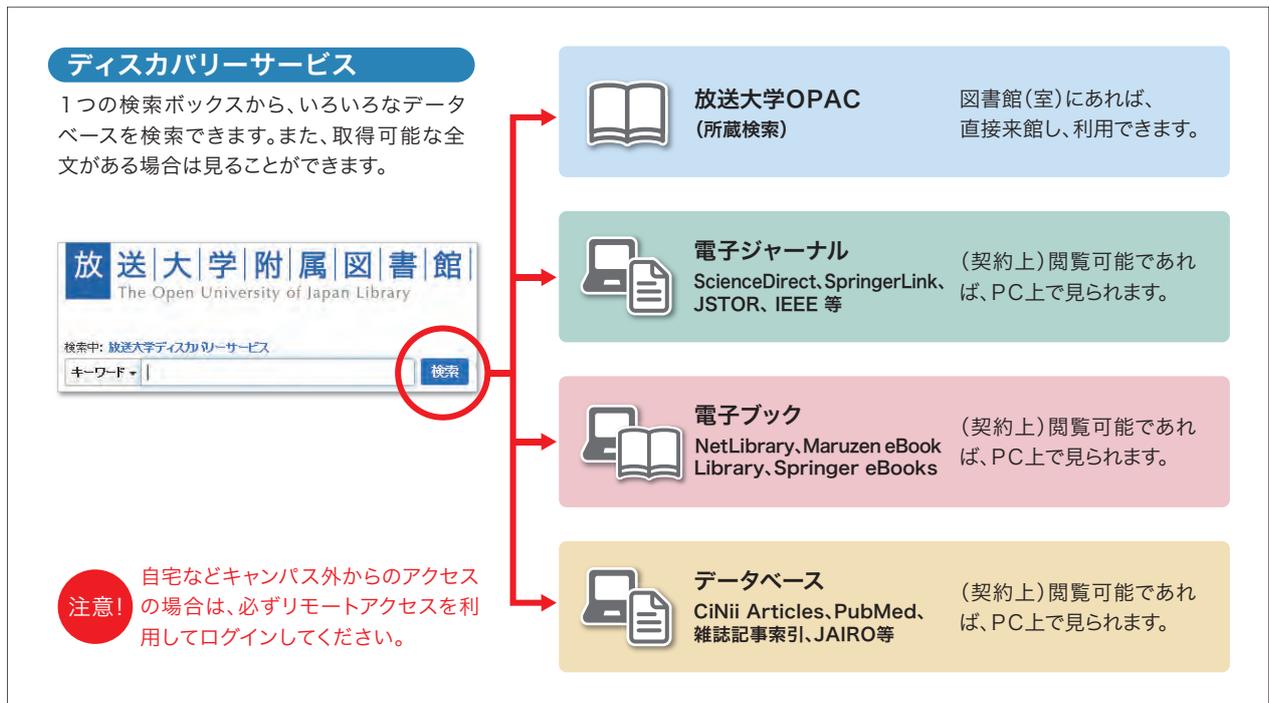
インターネット上で誰もが無償で論文などの学術情報を利用できるようにすることを「オープンアクセス」といいます。学術論文はもとより、かつては入手しにくかった会議録や報告書等もインターネット公開や機関リポジトリというサービスの広がりとともに入手できる機会が増えています。オープンアクセスの学術情報は自由に読むことができますが、たとえオープンアクセスであっても、利用にあたっては著作権法を遵守しなければなりません。また信頼できる場所から公開されているか、学術的価値があるものかなどを見極めたうえで利用することが必要です。

2 横断的に探す — ディスカバリーサービスを使う

ディスカバリーサービスとは

放送大学では、附属図書館や各学習センター図書室等で所蔵している図書、雑誌などの資料を調べる場合はOPAC(蔵書検索)で調べます。OPACでは、放送大学に所蔵がある場合は附属図書館(千葉市)等から各学習センター図書室に資料を取り寄せたり、放送大学に所蔵が無い場合でも他機関から複写物や資料を取り寄せることができます。また、電子ブックや電子ジャーナルは、それぞれの出版社や販売元のサイトで検索することにより該当論文や読みたい書籍の本文を探して、読むことができます。しかし、探したいものがあるときに、いくつものWebサイトを検索する必要があり、時間もかかり不便でした。そこで導入したのが、ディスカバリーサービスです。ディスカバリーサービスは、一つの検索ボックスから様々な学術情報(データベース等)を一度に検索できる便利な情報探索ツールです。しかも、それぞれのデータベースにリンクするため、(閲覧可能な資料は)全文までたどり着くことができます。本学で導入しているのは、EBSCO社のEBSCO Discovery Serviceです。

図1 ディスカバリーサービスイメージ



他のデータベースとの使い分け

便利なディスカバリーサービスですが、特有の問題もあります。それは、個々のデータベースのデータはそれぞれのルール・方式で作成されているため、検索語の組み合わせや方法によっては、個々のデータベースでの検索結果と、ディスカバリーサービスでの検索結果が異なることです。

また日々、データも検索システムも世界規模で更新しているため、今日と明日の検索結果が異なる場合もあります。そのような面もありますが、図書や電子ブックなど形態にかかわらず、資料によっては本文まで検索できる強力なサービスです。万能ではないがとても便利なサービスという認識でご利用ください。

表1は、ディスカバリーサービスや他のデータベースを使い分けする際の目安を表にしました。

表2は、放送大学ディスカバリーサービスで検索できるデータベースです(2015/1/30時点)。このデータベースの一覧リスト(http://lib.ouj.ac.jp/search/OUJ_EDS_DB_list.pdf)は、ディスカバリーサービスのトップページから取得できます。

表1 ディスカバリーサービスと他のデータベースとの使い分け

	放送大学 ディスカバリーサービス	放送大学蔵書検索 システム(OPAC)	CiNii Books / CiNii Articles	他の個別のデータベース
放送大学に資料(図書、雑誌、放送教材など)があるか知りたい	○	◎	△ CiNii Booksで検索可能だが蔵書全部ではない	×
学術論文を探したい	◎	△ 論文単位での検索は×、掲載雑誌の所蔵確認のみ可能	○ CiNii Articlesで日本の学協会やリポジトリの論文を検索可能	○ ディスカバリーサービスと併用で使うと効果的
読みたい論文(図書)がある。電子媒体で読みたい	◎ 収録雑誌名がわかっている場合は、直接、個別のデータベースで確認した方が確実	△ 電子ジャーナルや論文単位での検索は×、図書はタイトルや著者名での検索は一部可能	△ アクセス可能な論文も一部ある	○ ディスカバリーサービスと併用で使うと効果的
特定分野の文献を探す	△	△ 本や雑誌単位では探せるが、論文単位等では検索不可	△ CiNii Articlesで日本の論文なら論文単位で検索可能 CiNii Booksでは本や雑誌単位での所蔵検索なら可能	◎

表2 放送大学ディスカバリーサービス検索対象データベース一覧リスト *最新のリストは http://lib.ouj.ac.jp/search/OUJ_EDS_DB_list.pdf

NO.	データベース名	データベース概要
1	arXiv.org	物理学、数学、計算機科学、量的生物学などのプレプリントを含むさまざまな論文が保存・公開(無料)されているウェブサイト。(コーネル大学)
2	CiNii Articles	日本の学協会が発行する学術雑誌から論文を探し、その本文を読むことが可能。放送大学は定額アクセス可能なものも読むことが可能。(国立情報学研究所)
3	EBSCOhost 電子ブック	オンラインで閲覧できるeBook(電子ブック)コレクション。放送大学で契約した図書については読むことが可能。ダウンロードと印刷について60ページ分までの制限あり。(EBSCO社)
4	ScienceDirect	海外の学術雑誌(電子ジャーナル)、図書(電子ブック)のコレクション。放送大学で契約したものは読むことが可能。(Elsevier社)
5	ERIC	米国Educational Resource Information Center作成の教育関係のデータベース。検索結果に「Full Text from ERIC」の表記がある場合は、本文を見ることが可能。
6	DOAJ(Directory of Open Access Journals)	無料公開の電子ジャーナルポータルサイト。(スウェーデン・ Lund 大学)
7	JAIRO	日本の大学等の学術機関のリポジトリに蓄積された学術情報(学術雑誌論文、学位論文、研究紀要、研究報告書等)を横断的に検索可能。(国立情報学研究所)
8	J-STAGE	日本の学会関係の電子ジャーナル提供サイト。参加学会の学会誌、会議録等を提供。(独立行政法人科学技術振興機構)
9	JSTOR Arts & Sciences	人文科学を中心とした電子ジャーナルの初号から最新号の3~5年前までのアーカイブコレクション。放送大学で契約しているジャーナルについては読むことが可能。
10	LISTA(Library, Information Science & Technology Abstracts)	図書館学・情報科学のデータベース。560以上の専門誌や50冊近くの重要誌、厳選した約125の雑誌に加え、書籍や研究レポート、会議録などの索引データで構成。*本文はなし
11	Maruzen eBook Library	オンラインで閲覧できる日本で出版された図書のeBook(電子ブック)コレクション。放送大学で契約した図書については読むことが可能。ダウンロードと印刷について60ページ分までの制限あり。(丸善株式会社)
12	MEDLINE(EBSCOhost)	世界最大の医学文献情報データベース。National Library of Medicine(米国国立医学図書館)製作によるMEDLINEのEBSCO社版。*本文はなし
13	OAIster	世界各国の大学等の学術機関に蓄積された学術情報(学術雑誌論文、学位論文、研究紀要、研究報告書等)を検索できるデータベース。本文提供サイトへ直接リダイレクト。(OCLCが運営)
14	Springer eBooks	オンラインで閲覧できる海外の学術書のeBook(電子ブック)のコレクション。放送大学で契約した図書については読むことが可能。(Springer社)
15	雑誌記事索引(Japanese Periodical Index)	国立国会図書館が収集・整理した国内刊行和文雑誌(一部外国刊行和文雑誌・国内刊行欧文雑誌を含む。新聞記事をのぞく)から作成した索引データのデータベース。(国立国会図書館) *本文はなし
16	放送大学OPAC	放送大学附属図書館及び学習センター図書室等が所蔵する図書、雑誌、視聴覚資料等を検索できる。(放送大学附属図書館)
17	各出版社の電子ブック・電子ジャーナル	Wiley, IEEE, Cambridge University Press等世界の出版社からの文献の統合情報。本学で契約している電子ブック、電子ジャーナルについては読むことが可能。

ディスカバリーサービスにアクセス

放送大学附属図書館トップページからアクセスします。なお、利用の際はPCでの利用を推奨しております（スマホ等のモバイル機器では利用できないサービスがあります）。

また、自宅など学外から使用される場合は、リモートアクセス(P.3参照)でログインした状態でないと、最適なサービスが得られない場合があります。以下の内容を参考にしてください。

放送大学附属図書館ホームページ



ディスカバリーサービス (図書電子ブック等まとめて検索)

放送大学附属図書館HPの「ディスカバリーサービス」の部分をクリックすると、「放送大学ディスカバリーサービス」のページにアクセスします。検索ボックスにキーワードを直接入力する検索も可能です。

注意!

自宅など学外からアクセスした場合は、リモートアクセスのサービスをご利用ください。入力するID、パスワードは、システムWAKABAやキャンパスネットワークと同じID、パスワードです。

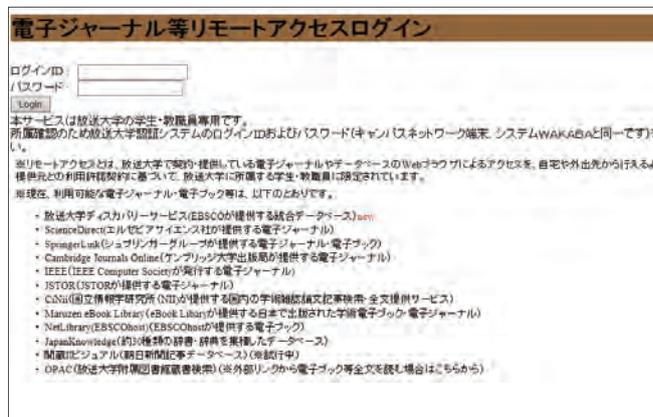
【自宅など学外からアクセスした場合】

自宅等から利用する場合は、リモートアクセスのサービスを利用してください。

また、サーバーが自動的に「学外からのアクセス」と判断した場合は、右の画面(①)が表示されます。その場合は、システムWAKABAやキャンパスネットワークと同じIDとパスワードを入力してください。

また、右下のような画面(②)が出ている場合も「ログインしてください。ログインすると制限なくご利用いただけます」をクリックして同じようにログインすると学内と同じようにサービスが受けられます。

①リモートアクセス画面



②学外からアクセスしているときの表示



ログインしてください。ログインすると制限なくご利用いただけます。

ここをクリックして
ログイン

ディスカバリーサービスを使ってみる

ここでは、ディスカバリーサービスの使い方を簡単に説明します。くわしい説明はマニュアルを参照してください。(マニュアル http://lib.ouj.ac.jp/search/OUJ_EDS_manual.pdf)

ディスカバリーサービスのトップページは以下のように表示されます。

検索ボックスに検索したいキーワードを入力して**検索ボタン**をクリックすると検索できます。**検索オプション**と**詳細検索**をクリックすると、検索方法(入力した順どりの検索、AND検索、OR検索など)や検索条件(フルテキストに限定、放送大学所蔵限定、出版日など)の設定ができます。なお、これらの条件は検索した結果画面の右サイドメニューからも追加できますので、最初は、検索ボックスにキーワードを入れるだけでもかまいません。

放送大学ディスカバリーサービストップページ

放送大学ディスカバリーサービス

検索中: 放送大学ディスカバリーサービス

キーワード: キーワードを入力 **検索**

検索オプション | 基本検索 | 詳細検索 | 検索履歴

【放送大学ディスカバリーサービスとは】
図書館で所蔵している図書や雑誌といった紙媒体や電子ブック、電子ジャーナルといった電子の資料など様々なリソース(資料)を対象とした検索エンジンで、必要な情報を簡単に素早く発見することが可能です。

【検索対象データベース】
●**検索対象データベースリスト**

【学外からの利用について】
学外(自宅など)から放送大学ディスカバリーサービスを利用し、本文(PDF、HTML)を参照するにはログインが必要な場合があります。**こちら(リモートアクセス)**でログインをお願いします。

【マニュアル】
●(放送大学版)簡易マニュアル
●ヘルプ(英語オリジナル版)

※放送大学ディスカバリーサービスは現在、以下のDB(データベース)をまとめて検索することができません。各DBを直接検索して下さい。

【対象外DB】

- 聞蔵II(朝日新聞DB)
- ジャパンナレッジLib
- 日経BP記事検索サービス
- 日経 Value Search
- D1-law.com(法律判例文献情報)

※ 直接、各データベースを検索する場合は、以下から辿れます。

- 学内から利用できるものはこちら
- 自宅等の学外から利用する場合はこちら

P.5で紹介した**検索対象データベースリスト**はここから見るができます。

自宅など学外からの接続の場合は、必ず、**リモートアクセス**でログインしてから利用してください(システムWAKABAやキャンパスネットワークと同じID、パスワードです)。

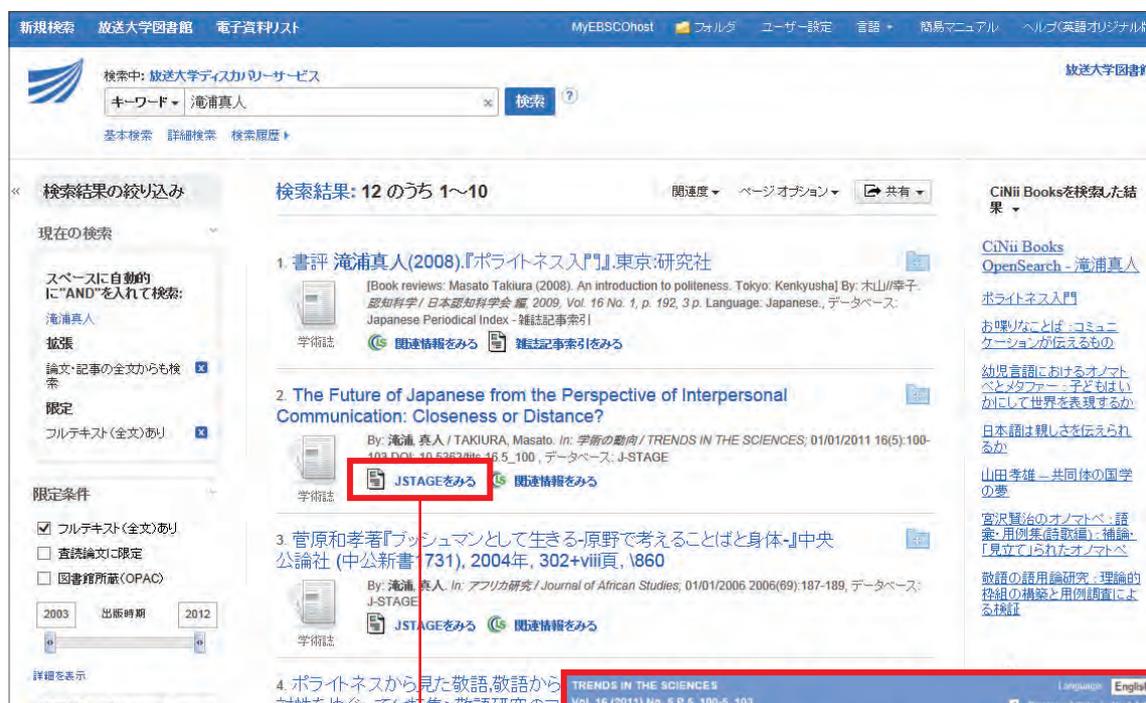
放送大学で用意したマニュアルとEBSCO社で用意した英語のマニュアルのWebサイトがここから見るができます。

検索結果から文献の表示まで

実際に検索してみます。以下、検索例をご覧ください。

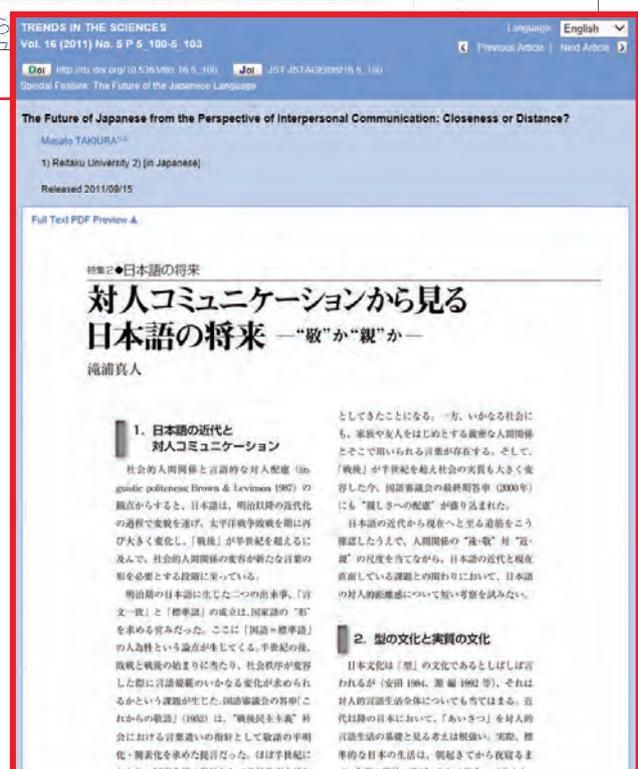
- 1) 著者名と限定条件「フルテキスト」の条件で検索します。
- 2) 検索結果に読みたい文献がありました。その表示データには、 **JSTAGEをみる** のアイコンが出ています。このように、各データベースの名前のアイコンが出ている場合、閲覧ができる可能性が高いので、そのアイコンをクリックします。
- 3) すると、その文献を持っているデータベース「JSTAGE」にリンクし、文献が表示されます。

検索結果画面



このように、うまく文献にたどり着く場合もありますが、そうでない場合もあります。その時は、 **関連情報を見る** を選ぶとその他のツールを紹介するページになります。そこから、附属図書館へ文献の複写申込もできますので、ぜひ、ご利用ください。

皆様が新しい発見(ディスカバリー)に出会えることを期待しております!



検索エンジン

TOPICS-1

前章では、ディスカバリーサービスについて紹介しましたが、皆さんがインターネットを使って調べる時にはどのWebサイトを使っているのでしょうか？ Yahoo! JAPANでしょうか？ GoogleそれともBingでしょうか？ 今、できた名前は「検索エンジン」と呼ばれるサイトです。「検索エンジン」とは、「インターネットのウェブページの情報をデータベース化して、ユーザーが入力したキーワードや分類項目などから必要な情報を取り出して表示するシステム^{*}」のことです。

2012年12月に調べた調査 (comScore発表) によると、世界全体での検索エンジンの利用度合いはGoogleが65%を超えダントツの1位、2位にBaidu、3位にYahoo!です。ここでは、そのGoogleの機能のうち、学術情報についての情報探索ツールを紹介します。

※「検索エンジン」の語の説明は、現代用語の基礎知識, JapanKnowledge, <http://japanknowledge.com>. (参照 2014-11-04)より

● Google Scholar

(<http://scholar.google.co.jp/>)

Googleの機能の中で、学術論文などの学術情報に特化した検索エンジン。学術専門誌、論文、書籍、要約など、さまざまな分野の学術資料を検索できます。検索できる記事には、多岐にわたる学術出版物や学会論文のほか、ウェブ上で閲覧可能な学術資料も含まれます。検索結果は、引用された回数の多い順に並べられるので、有用な論文などを見付けることができます。

● Google Scholar 検索のコツ

簡単ではありますが、検索のコツをいくつか紹介します。

① 詳細検索 (検索オプション) を使う！

Google Scholarの検索窓右端にある▼をクリックすると、画像2のような検索オプションページに変わります。この画面から、単語による検索、フレーズ (文章)、OR検索、NOT検索 (除外する語を指定する検索)、著者、出典 (資料名)、日付などの検索ができます。

② ファイルタイプを指定して

必要な文書やファイルを検索する！

例:

例のように、「filetype:」の次にPDF、DOC、PPT などファイルタイプを指定できます。

③ 引用元から探す！

Google Scholar の検索結果に「引用元」という文字が出てきます。この文字をクリックすると、その文献を引用している文献のリストにリンクします。このように関連する文献を次々と探せます。

● Google Scholar のメリット

放送大学ディスカバリーサービスは、放送大学で見ることができる (可能性が高い) 資料を検索するのに適したツールだとすると、Google Scholarは放送大学の所蔵に関係なく広い検索ができ、放送大学にない (見ることができない) 資料も探すのに適しています。放送大学ディスカバリーサービスで見つからない場合は、Google Scholar、Googleの順番で探すことをおすすめします。

画像1 Google Scholar



画像2 検索オプションページ



数理系学術情報の 検索方法について —人間とwebとのコミュニケーション—

大学院（文化科学研究科）
自然環境科学プログラム教授

石崎 克也



自然科学系の大学院生が何かに興味を持って調べ出すきっかけは、「まずは人間」と言ってもよいでしょう。一般には、指導教員や大学院の先輩達とお話をしていて、書籍や学術論文を紹介してもらう過程で、興味の対象と出会うことが多いのではないのでしょうか。できれば、研究課題の押しつけではなく、主体的に取捨選択して研究課題を見つける良い出会いが望ましいと思います。

大学院生が、研究テーマが決まり、専門書または学術論文の手がかりを得ていると仮定しましょう。インターネットの時代だからと言って、むやみやたらにGoogleなどの検索サイトにキーワードを打ち込んでみてもあまり効果は得られないものです。自然科学系の大学院において成果と呼ばれるものは何でしょうか。それは、査読論文です。それでは、論文審査員はどのような基準で掲載可否を判断するのでしょうか。分野ごとに若干の違いはあるにせよ、

- ① 新しい ② 正しい ③ 面白い

の3項目を満たしていなければ、査読論文として受理をしてはもらえません。大学院生は、先行研究・研究背景を掌握し、自ら設定した研究目的が「新しい」ものであるかを確認する作業の中で、必要な学術情報を調査・収集する力を要求されます。また、研究目的を達成するための研究方法を構築するに必要な学術情報の収集は求められます。

既に大学院生は手がかりを持っていると仮定していますので、研究対象のキーワード、先行研究者名などを「文献データベース」に打ち込んで関連論文を見つけ出しましょう。下の例は、数学のデータベースzbMATHです。ここでは、1868年から

zbMATH(<http://zbmath.org/>)



現在までの数学文献がすべてカバーされていて、3,500のジャーナル、1,100のブックシリーズ、およそ17万点の書籍から抽出した300万件超のデータを収載されています。

「文献データベース」には、その論文本体(pdf file)にたどり着く情報が蓄えられています。学術雑誌社から論文が無料で配布されている場合には、このデータベースのリンクから直接たどり着くことができます。

しかしながら、一般には必ずしもうまくはいきません。それでもあきらめるわけにはいきませんね。そのような場合にどうすれば良いかを経験値をもとに書いておきましょう。

方法1: 文献データベースで得られた論文タイトル著者名をGoogleなどの検索サイトに張り込むことで、多くの魚を投網に掛けるように関連HPを見つけることができます。ただし、この後これらのwebサイトの中から求める論文を探し出すことが意外と大変です。

方法2: 研究が目的であれば、学術雑誌を閲覧することのできるサイトがあります。数学の論文を紹介してくれるProject Euclid(<http://http://projecteuclid.org/>)です。残念ながら、全ての学術雑誌が可能ではありません。

方法3: 大学などの図書館を利用する。放送大学の院生であれば、附属図書館の電子ブック・電子ジャーナルのWebページで見つけることができるかもしれません。放送大学と契約のない学術雑誌などについては、実際に契約のある大学の図書館で閲覧の許可をもらう必要があります。この場合は、自宅というわけにはいきませんし、送ってもらうとなれば費用と手間が発生します。

方法4: 実物は諦める。学術雑誌掲載前のversionが、プレプリントサーバーに置いてある場合があります。数学では、arXiv(<http://arxiv.org/>)が有名です。また、著者個人のHPに掲載論文versionとは異なる形式で、研究成果報告が紹介されていることもあります。

方法5: もし、経済的に余裕があるのであれば、「文献データベース」にリンクされている学術雑誌社から(有料)購入することが一つの方法ではあります。

最後に、インターネットの利用ではありませんが、書籍に学術論文の書き方を紹介したものもあります。例えば、木下是雄著、「理科系の作文技術」、中公新書624(1981年初版)などは長い間、理系学生の論文作成の教科書だったと記憶しています。余談になりますが、「最後も人間」だと思います。自分で調べて「新しい」と思ったことは、その分野の専門家なら「誰でも知っていること」であることがあります。セミナーなどの機会に指導教員や先輩達に意見をもらうことのできるコミュニケーション能力を培うことが、実は最も大切かもしれません。

海外の論文・記事・情報を探す

放送大学で契約している海外の電子ジャーナル

放送大学では、Elsevier社のScienceDirectやSpringer社のSpringerLinkなど、いくつかの海外電子ジャーナルを契約しています。インターネットに接続されたパソコンから、それぞれのWebページにアクセスすると、収録されている論文のタイトルや著者名での検索はもちろん、論文本文中の語句からも検索することができます。*

検索結果には、書誌情報(論文名・著者名・掲載誌のタイトル等)だけでなく、抄録(Abstract)へのリンクもあり、タイトルだけではわからない内容も確認できます。放送大学で購読しているタイトルについては、論文本文もパソコンの画面上で閲覧し、印刷することができます。また、冊子版の発行よりも前に閲覧することができる論文も一部あります。

*自宅等、放送大学のキャンパス外から利用される場合は、リモートアクセスにログインしてからご利用ください。ただし、一部リモートアクセスに対応していない電子ジャーナルサービスもあります。

[ScienceDirect(サイエンス・ダイレクト)] リモートアクセス可

Elsevier社が提供する2,500タイトル以上の雑誌論文を検索できる、フルテキストデータベースです。放送大学では、①Biochemistry, Genetics and Molecular Biology、②Computer Science、③Economics, Econometrics and Finances、④Health Science、⑤Neuroscience、⑥Psychology、⑦Physics and Astronomy、⑧Social Scienceの8サブジェクト・コレクションを購読しており、購読分約1,500タイトルと無料提供分約400タイトルを合わせた、約1,900タイトルの雑誌の論文を閲覧することができます(2015/1/30時点)。

(リンク先)<http://www.sciencedirect.com/>

(マニュアル・ガイドブック)http://www.elsevier.com/jp/online-tools/sciencedirect/users/sd_qrg_japanese.pdf

使い方(抜粋)

①トップ画面

The screenshot shows the ScienceDirect homepage. At the top, there is a search bar with the text 'Search all fields' and a magnifying glass icon. Below the search bar, there are several navigation options: 'Journals', 'Books', 'Sign in', and 'Help'. The main content area is divided into several sections. On the left, there is a 'Browse publications by subject' section with a grid of categories including Physical Sciences and Engineering, Life Sciences, Health Sciences, and Social Sciences and Humanities. On the right, there is a 'Browse publications by title' section with a grid of letters A through X. Below these sections, there are three columns: 'Open Access', 'ScienceDirect's Top 25', and 'Latest articles'. The 'ScienceDirect's Top 25' section features a large image and the text 'View the top downloaded articles.' and 'Your area of interest'. The 'Latest articles' section lists several recent publications.

②キーワードを入力して検索してみます。検索結果一覧が表示されました。

The screenshot shows the ScienceDirect search results page. The search term 'social and environmental reporting' is entered in the search bar. The results show 61,870 items found. On the left, there are filters for Year (2015 to 2011) and Publication title (Social Science & Medicine, Journal of Cleaner Production, etc.). The main results list three articles, each with a red box highlighting the 'Open Access' icon and the article title. A legend at the bottom explains the icons: a red box with a red icon for 'オープンアクセス (全文閲覧可)', a green icon for '購読 (全文閲覧可)', and a grey icon for '非購読 (全文閲覧不可)'.

③一覧画面から、タイトル部分のリンクをクリックすると詳細が表示されます。
(②の画面の2件目を詳細表示しています)

The screenshot shows the detailed view of the article. The article title is 'Social and environmental reporting at the VRA: institutionalised legitimacy or legitimisation crisis?' by Abu Shiraz Rahaman, Stewart Lawrence, and Juliet Roper. On the left, a red box highlights the 'Article outline' section, with a red box labeled 'アウトライン' pointing to it. On the right, a red box highlights the 'Recommended articles' section, with a red box labeled 'おすすめの論文 被引用情報' pointing to it. At the bottom, a red box highlights the 'Keywords' section, with a red box labeled '抄録 論文全文(購読誌・無料誌の場合)' pointing to it.

【SpringerLink(シュプリンガー・リンク)】 リモートアクセス可

STM(科学・技術・医学)分野を中心に提供するSpringer社の電子ジャーナル・ブックのデータベースです。Springer社が提供する雑誌のほぼすべて(一部、対象外のタイトル有)に該当する約1,700タイトル(1997年以降分)と、約1,000タイトルの初号から1996年までの発行分を閲覧できます(2015/1/30時点)。

また本学では、レクチャーノートシリーズ(Lecture Notes in Computer Science, Lecture Notes in Mathematics, Lecture Notes in Physics)を含むSpringer社の出版する電子ブック約28,000タイトル(2005-2012年出版)も閲覧することができます。

電子ジャーナル・ブックを、同一の画面からまとめて検索することができます。

(リンク先)<http://link.springer.com/>

(マニュアル・ガイドブック)<http://www.springer.jp/database/springerlink.php>

【Cambridge Journals Online】 リモートアクセス可

Cambridge University Pressが発行する、300タイトル以上の雑誌論文が検索できるデータベースサービスです。本学ではHSS(人文社会科学)パッケージを購読しており、“Historical Journal”や“Journal of Social Policy”など、人文・社会科学分野の約200タイトルの電子ジャーナルについて、全文まで閲覧することができます(2015/1/30時点)。

(リンク先)<http://journals.cambridge.org/>

(マニュアル・ガイドブック)http://lib.ouj.ac.jp/search/CambridgeUP_manual.pdf

【JSTOR(ジェイストア)】 リモートアクセス可

主要学術ジャーナルで構成された、信頼性の高いアーカイブの作成と維持を使命に設立された、非営利団体JSTORによって提供されている電子ジャーナルサービスです。アーカイブ(バックナンバー)を提供するサービスのため、最新号は原則提供されておらず、発行から一定期間(MOVING WALLとよばれる。概ね1~5年)を経た論文を閲覧することができます。MOVING WALLの年数は、掲載誌ごとに異なります。

本学ではArts & Sciences I Collectionという、経済学、歴史学、政治学、社会学、言語学、教育学など人文社会科学系のほか、環境学、数学、統計学分野の重要175タイトルが収録されたパッケージを購読しています(2015/1/30時点)。

(リンク先)<http://www.jstor.org/>

(購読タイトル・範囲)<http://about.jstor.org/content/arts-sciences-i#tab-title-list>

このほか、コンピュータサイエンスとコンピュータ工学に関する定期刊行物を収録しているIEEEのComputer Society Digital Library Periodicals Packageや、個別契約の電子ジャーナルなども購読しています。P.39-42『文献情報等探索ツール一覧表』や図書館のホームページにある「電子ブック・電子ジャーナル」のページもあわせて参照してください。

無料で利用できるデータベース

無料で利用できるデータベースとして、特に医学系の学術論文情報をさがすのに有用なPubMedについての紹介と、その使い方を簡単に説明します。医学に限らず、それぞれの分野に特化したデータベースもありますので、指導担当の先生にその分野のデータベースを教えてくださいたいのもよいかもしれません。

【PubMed(パブメド)】

NLM(米国国立医学図書館:National Library of Medicine)内の、NCBI(国立生物科学情報センター:National Center for Biotechnology Information)が作成している、医学系論文をさがすのに有用なデータベースです。世界の主要な医学関連雑誌(約5,700誌)に掲載された2,400万件以上の学術論文情報を検索することができます。収録範囲は1946年以降現在まで、週5日の頻度で更新されていますので、日々新しい情報が追加されています。

(リンク先)<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed>

使い方(抜粋)

①トップ画面

The screenshot shows the PubMed homepage. A red box highlights the search bar with the text "キーワード等で検索". Another red box highlights the "Using PubMed" section, with a callout box containing the text "使い方はここを参照".

②検索結果一覧画面

The screenshot shows the PubMed search results page for the query "education of health professionals". A red box highlights the left sidebar filters, with a callout box containing the text "フィルター". Another red box highlights the main search results list, with a callout box containing the text "検索結果一覧".

※フィルターについて

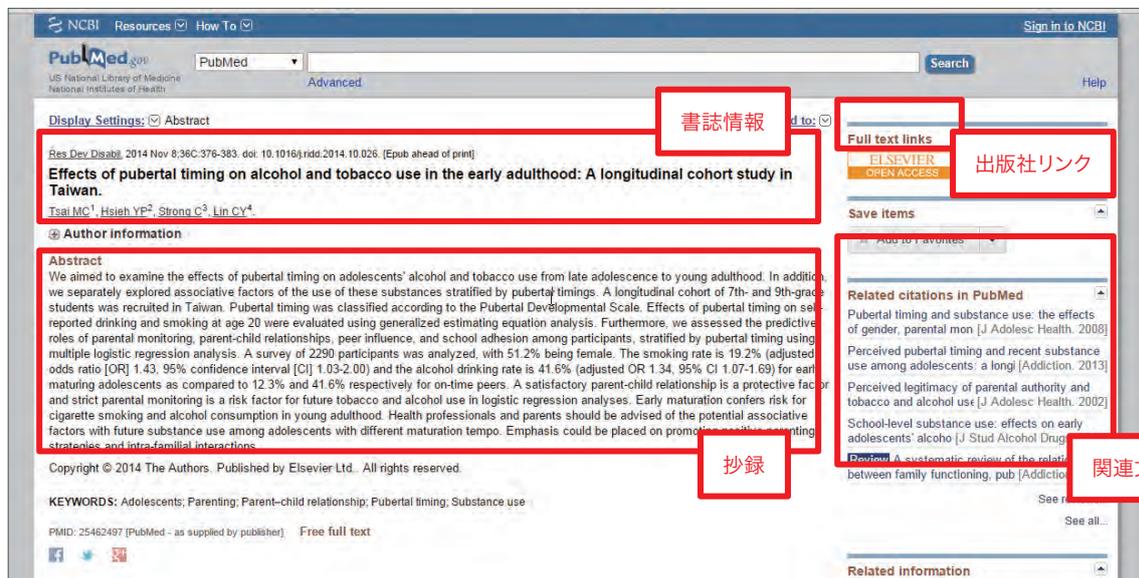
例えば、Text availabilityにある「Free full text」をチェックすると(クリックすると、✓マークがつきます)、オープンアクセス誌(無料電子ジャーナル)などに掲載されている論文のみに絞りこむことができます。

またShow additional filtersをクリックすると、表示されていない他のフィルター項目をみることができます。例えば、Show additional filters をクリック後、Languagesにチェックをいれて「Show」をクリック、フィルターにLanguagesが表示された状態で「English」にチェックをいれると、英語で書かれた論文のみ検索することができます。

③ 詳細画面

検索結果一覧画面に表示された論文の、タイトル部分のリンクをクリックすると、詳細画面が表示されます。(②の3件目を表示しています。)

画面右上にある出版社リンク(バナー)をクリックすると、出版社のサイトにとびます。この論文の場合、掲載誌がオープンアクセス誌(無料電子ジャーナル)のため出版社のサイト上で本文全文を無料でダウンロードできます。



[zbMATH(ジーピーマス)]

数学分野の1868年から現在までの300万件以上のデータが検索できる数学文献データベースです。年間12万件の新しい情報が追加されています(P.10の石崎先生のコラムでも紹介されています)。

(リンク先)<http://zbmath.org/>

[Directory of Open Access Journals(DOAJ)]

全分野のオープンアクセス誌(無料電子ジャーナル)へのリンク集です。約1万タイトルのオープンアクセス誌が登録されていて、うち約6千タイトルについては論文単位で検索することができます。

(リンク先)<http://doaj.org/>

生活健康科学 プログラムにおける 文献検索

大学院（文化科学研究科）
生活健康科学プログラム准教授

戸ヶ里 泰典



生活健康科学プログラムは、健康領域、生活領域、福祉領域に分かれています。それぞれ指導教員のバックグラウンドはバラエティに富んでいます。さらに、健康領域、生活領域では、その中でも自然科学系と社会科学系のバックグラウンドをもつ先生にわかれています。

自然科学系の研究の場合、どの領域であってもきわめて多くの研究の蓄積がある場合が多いです。そのテーマに関連する研究の蓄積をたどり整理・批評していく作業がレビューで、その際に文献の検索技術が必要になります。また、多くの国々に類似テーマに関心ある研究者が散らばっていますので、共通言語である英語で記述された論文が主になります。したがって、医学系・健康科学系・栄養学系などの研究ではPubMedなどの頑健な英語論文データベースを駆使し、一定の検索方法の元で系統的に論文を検索していくことが必要です。その一方で、国際誌を中心に、こうした系統的レビューの結果をまとめたレビュー論文という種類の論文も数多く掲載されています。このレビュー論文を探し出して参照することも研究を効率的に進めるうえでのカギになると思います。

トムソン・ロイター社が運営するweb of scienceという自然科学系・社会科学系を網羅したデータベースに登録されている研究論文を掲載する学術雑誌には、インパクトファクターという、年間平均引用回数を示す値がつけられます。とくに自然科学系・医学系の研究者の間では、その値を重視する傾向にあります。つまり世には類似テーマの玉石混交、膨大な数の論文がありますが、インパクトファクターが高い雑誌に掲載されている論文は多くの論文に引用されがちなので、信用できる可能性が高い、という考え方です。ただし、研究領域によって、値の水準が大きく異なるので、確認のうえ、高い値の雑誌から検索するというのも一つの方法であると思います。また国内雑誌はごく少数ですので注意が必要です。

ほかに、著者名を手掛かりにデータベースを検索していくということも効果的な場合が多いです。特に自然科学系はグループで研究を行うことが多く、論文検索を続けてい

ると関心あるテーマについて同じ著者名や研究グループが度々登場していることに気づくことがあります。逆にその著者名から、その方々がどのような研究をしているのか論文検索していくと、重要な研究成果を発見しやすいこともあります。

社会科学系の研究の場合でも、基本は自然科学系の研究と同様です。様々な論文データベースから、系統的に文献を検索しレビューしていくことが重要です。ただし、自然科学系ほど膨大に研究蓄積があることは多くなく、逆に一つの研究論文で明らかにされる知見の分量が多く、研究テーマも多様です。Google scholarやCiNiiなどのツール、データベースから検索するのも良いですが、自身のテーマに関して、関連する重要な研究論文を掲載している有名な学会誌、学術雑誌があるはずですので、指導教員に確認の上、CiNiiなどの絞り込み検索を用いてその雑誌の中から検索していくことも、良い研究を探し出す一つの方法でしょう。また、社会科学系では、国内の学術雑誌にも優れた研究が掲載されている可能性が高いのも特徴と思います。

また、社会科学系の場合は、雑誌論文だけでなく、成書の中に優れた学術書が多くあり、研究遂行において大いに参照する必要があります。特に国外の学術書は数が多い分優れたものも多く、放送大学では契約している電子ブックを通じて記事のコピーを手に入れることもできます。こうしたことからEBSCOディスカバリーサービスは特に社会科学系の研究を進める上で大変に有力な検索手段になると思います。

福祉領域では、社会科学系の研究が多いですが、その中でも指導教員によっては法学系の研究が行われることもあります。その場合法令データや判例集など、文献の検索法や引用法が、上記に示したものと異なることも間々あります。ここでは説明を割愛しますが、指導教員とよく相談して進めることが重要です。

以上、生活健康科学プログラムにおける文献検索について示してまいりました。本プログラムは、研究領域はバラエティに富んでいます。学際性がある領域ともいえます。文献はご自身の研究テーマ・領域に沿って読んでいくことが重要ですが、分野を超えた論文・文献を目にする機会もかなり多いかもしれません。しかしそういう時は食わず嫌いせず、貪欲に目を通してみてください。そうすることでユニークなアイデアの発見につながるかもしれません。逆にそうした本プログラムならではの機会を大事にしてほしいとも思います。

国内の論文・記事・情報を探す

日本語の論文やデータを調査するには

ここでは、日本の学術論文を中心とした論文情報提供サービス「CiNii Articles」、日本の各府省が公表する統計データを包括的に検索・利用可能な「e-Stat」、事典・辞書を中心とした知識情報データベース「ジャパンナレッジLib」について紹介します。

サイニイ [CiNii Articles]

NII(国立情報学研究所)が提供する日本の学術論文を中心とした論文情報提供サービスです。①学協会刊行物掲載論文と、②国内大学等が刊行する研究紀要、③国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどを含む膨大なデータから論文を調査することができます。①②については論文本文を閲覧でき、連携協力している他サービスの論文本文等へのリンクもあります。

論文情報:約1,600万件、本文:約400万件(2014年現在)

[リンク先] <http://ci.nii.ac.jp/>

[マニュアル・ガイドブック] http://ci.nii.ac.jp/info/ja/articles/manual_outline.html

[注意事項] 学外から利用する場合、まずリモートアクセス<https://login.libezproxy.ouj.ac.jp/login>にログインします。(附属図書館ホームページ<http://lib.ouj.ac.jp/>の右側にあるアイコンをクリックするのもよい)CiNii画面上右上に“放送大学学園 [定額]”と表示があれば学内と同環境となります。

使い方(抜粋)

- ①附属図書館トップページにあるCiNiiバナー  あるいは「電子ブック・電子ジャーナル」のページのデータベース名をクリックします。
- ②簡易検索の画面が最初に開くので、キーワード等を入力し“検索”ボタンをクリックします。または検索窓右下の“詳細検索”をクリックし検索します。いずれの画面でも、画面右上に“放送大学学園 [定額]”と表示があれば学内と同じ環境です。また本文がCiNii内にある論文に制限したい場合、“CiNiiに本文あり”などのボタンも併せてクリックし、検索してください。



CiNii「詳細検索」画面

論文タイトル・著者名・キーワード等を入力し、検索ボタンを押して検索します。

学協会刊行物・大学紀要などの刊行物の一覧から探す場合ここをクリックします。

サイトライセンス個人ID登録、ログインはここから。

検索方法についての詳細はヘルプで確認できます。

検索対象指定(ボタン)について

【検索対象指定(ボタン)について】

「すべて」:全ての論文を対象に検索、「CiNiiに本文あり」:CiNiiに論文本文がある学協会刊行物と研究紀要を対象に検索、「CiNiiに本文あり、または連携サービスへのリンクあり」:CiNiiに論文本文があるものと、連携サービス(医中誌Web等)へのリンクがある論文を対象に検索します。

③ 検索結果の一覧が表示されます。タイトルをクリックすると、詳細表示画面に移動します。

検索結果: 9件中 1-9 を表示

すべて選択: 新しいウィンドウで... 実行

20件ずつ表示 刊行物名:五十音順 表示

特集:『検索』のゆくえの編集にあたって
立石 亜紀子, 賀藤 泰雄, 白石 啓, 高久 雅生
情報の科学と技術 63(1) 1 2013-01-01
Cinii PDF - オープンアクセス

Cinii「詳細表示」画面へ

検索のゆくえ (<特集>『検索』のゆくえ)
三輪 真木子
検索の歴史を振り返り将来を展望した。システム志向とユーザ志向のアプローチがいかに歩み寄りに至るプロセスと位置づけ、両アプローチの概念モデル適合性、情報探査プロセスモデル群、コストと時間削減のあゆみ、および学習

本文画面へ

Ciniiに論文本文がある場合、Ci...
などが、また連携サービスの各アイコンが表示されます。

刊行物名、巻号、ページ、出版年が表示されます。

この論文にアクセスする
この論文をさがす

収録刊行物
情報の科学と技術 (特集) 63(1) 1 2013-01-01 (2013年01月)
放送大学 情報科学技術情報

Cinii PDFオープンアクセスやCinii Link、機関リポジトリをクリックすると、本文が利用できる場合もあります。
CiniiPDF-未公開とある場合、学会の設定する非公開期間の利用はできません。本文を閲覧できない場合は、放送大学OPACをクリックし、掲載されている雑誌等の放送大学内所蔵を探すこともできます。または、放送大学関連情報をクリックし、附属図書館への複写申込や関連情報からの検索などを行ってください。

「放送大学関連情報」画面

放送大学

Title: 検索のゆくえ (<特集>『検索』のゆくえ)
Source: 三輪, 真木子, 情報の科学と技術 Volume: 63 Issue: 1 (2013-01-01) p. 2-8. ISSN: 0

放送大学OPAC、CiniiBooksなど、学内・学外の所蔵検索ができるページにリンクしています。

放送大学-他館の所蔵を探す
放送大学図書館蔵書検索

文献複写を図書館に依頼する (有料) *初めての申し込みの方は取寄せページをご確認ください。
倉庫倉 他大学等文献複写申込

放送大学附属図書館経由で文献複写を取り寄せたい場合、ここをクリックしてください(複写依頼画面の前に、先に放送大学ログインのページが開きます)。(有料)

Google Scholar - 著者名検索
Google Scholar - タイトル検索
OAIsterでこの論文タイトルの情報を探す

【サイトライセンス個人IDについて(有料)】

[Ciniiヘルプ内説明] http://ci.nii.ac.jp/info/ja/articles/service_siteprsn.html

定額制機関所属者が取得できるIDです。Pay Per View利用に比べ、若干安価に有料論文を取得することができます。利用最初のID取得申請のみ学内の端末から行う必要があります。登録後はご自宅から利用可能、登録料は不要ですが、1論文毎に課金されます。クレジットカードの登録が必要です。

【検索のヒント】

① キーワードの入力

(例)「短期記憶」または「長期記憶」を論題に含む論文を検索する場合、「**短期記憶 OR 長期記憶**」と入力します。

CiNii「詳細表示」画面

論文検索 著者検索 全文検索 大学図書館の本をさがす

短期記憶 OR 長期記憶 検索

すべて CiNiiに本文あり CiNiiに本文あり、または連携サービスへのリンクあり 詳細検索

タイトル

著者名 著者ID 著者所属

刊行物名 ISSN 巻号ページ

出版者 参考文献 出版年 年から 年まで

(その他) 完全一致検索で検索したい場合は「/(スラッシュ)」で文字列を括ります。
例: /放送大学/

「短期記憶」を含むが、「長期記憶」は論題に含まない論文を検索したい場合、「**短期記憶 NOT 長期記憶**」と入力して検索します。(ORやNOTの前後に、空白文字(半角または全角)で空白が必要です。)

② 雑誌タイトルから論文を探したい場合、CiNiiトップページ左下にある「CiNii本文収録刊行物ディレクトリ」をクリックして検索します。

CiNii 本文収録刊行物ディレクトリ

刊行物の刊行者名や刊行物名から、巻号一覧、目次とたどって見ることができます。
以下のカテゴリからご利用ください。

NII-ELS 収録刊行物

すべての学術刊行物

NII-ELSに登録されたすべての学術刊行物を一覧できます。

刊行物名から探す

アイウエオ カキクケコ サシスセソ タチツテト ナニノネノ
ハヒフハホ マミムメモ ヤユヨ ラリルレロ
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z その他

すべての刊行物

学協会刊行物

NII-ELSにより登録された学協会刊行物を一覧できます。

提供学協会から探す

学協会名

アイウエオ カキクケコ サシスセソ タチツテト
ハヒフハホ マミムメモ ヤユヨ ラリルレロ

刊行物名

刊行物名	本文提供条件	提供機関	収録巻
熱帯医学		長崎大学	37(2) ~ 4
熱帯農学研究		九州大学	1 ~ 27
熱帯農業	オープンアクセス	日本熱帯農業学会	33(4) ~ 4
ネットワーク:年報	オープンアクセス	東京大学	
熱工学講演会講演論文集	定額アクセス可能	一般社団法人日	
熱工学コンファレンス講演論文集	定額アクセス可能	一般社団法人日	
熱流体系および同体系のマイクロシミュレーションに関する合同シンポジウム・分子動力学シンポジウム講演論文集	定額アクセス可能	一般社団法人日本機械学会	2000(5)
年会講演予稿集	オープンアクセス	一般社団法人日本物理学会	37(1) ~ 4
年会予稿集	オープンアクセス	一般社団法人日本物理学会	25(1) ~ 3
年会論文集	有料	一般社団法人日本科学教育学会	2 ~ 35

刊行物の刊行者名や刊行物名から、巻号一覧、目次とたどって、見ることができます。

巻号一覧へ

該当の先頭文字をクリック

リモートアクセス、またはサイトライセンス個人IDでログインした場合、自宅など学外のPCからも「定額アクセス可能」の論文が無料で利用可能です。

クリックすると料金を確認できます。

【ジャパンナレッジLib】

辞書・事典など約50のコンテンツを含む日本最大規模の知識情報データベースです。『日本大百科全書(ニッポニカ)』や『日本国語大辞典』といった百科事典、国語辞典のほかにも、英語やラテン語の辞典、『法律用語辞典』など専門辞書・事典も収録しています。また『東洋文庫』や『週刊エコノミスト』など、図書・雑誌も収録されています。紙の辞書・事典とは違い、見出し語だけでなく、本文の中に書かれている言葉から検索することができます。

[リンク先] <http://japanknowledge.com/library/>

[マニュアル・ガイドブック] <https://japanknowledge.com/file/brochure/kaniguide.pdf>

[注意事項] 同時に使えるユーザー数が4名までです。5番目以降の利用者は、ログインすることができません。しばらく待ってから、再度アクセスしてください。また、利用終了後は画面右上にある「ログアウト」ボタンをクリックして終了してください。ご自宅等、学外から利用される際は、リモートアクセスにログインした後にご利用ください。

使い方(抜粋)

- ① 附属図書館のホームページ「電子ブック・電子ジャーナル」にあるデータベース名をクリックします。ジャパンナレッジLibの画面が表示されたら「ログインする」のボタンをクリックしてください。
- ② ログイン後に以下のような基本検索画面が表示されます。最初は、ジャパンナレッジLibによって選ばれた単語が入っていますので、検索対象(「見出し」か「全文(辞事典)」)をプルダウンで選択し、検索語を入力したのちに、「検索」ボタンをクリックしてください(下の画面では検索対象を「全文(辞事典)」として、「放送大学」を検索した結果が表示されています)。検索結果のリンク(青字部分)をクリックすると、詳細が表示されます。利用終了後は必ず画面右上にある「ログアウト」ボタンをクリックして、終了してください。

ジャパンナレッジLib「基本検索」画面

The screenshot shows the search interface of JapanKnowledge Lib. At the top right, there is a 'ログアウト' (Logout) button. Below the search bar, there is a dropdown menu for search targets, currently set to '放送大学' (Hokusei University). The search results are displayed in a list format, with the first result being '放送大学' (Hokusei University). Red boxes and arrows highlight the 'ログアウト' button, the search bar, the search results list, and the '放送大学' search target.

利用終了時は必ず「ログアウト」をクリック。

検索語の入力

検索結果一覧表示順は検索結果上部で切り替えられます。

【e-Stat(政府統計の総合窓口)】

総務省統計局が中心となり、独立行政法人統計センターが管理運用しているWebサイトで、日本の各府省が公表している統計データをまとまった形で検索・閲覧・利用ができます。

「日本の政府統計に関する情報のワンストップサービスを実践」と「社会の情報基盤たる統計をだれでも利用しやすいかたちで提供」を目的としているため、いろいろなやり方でユーザを導くようなWebサイトのつくりになっています。「貿易統計」、「国勢調査」、「作物統計調査」、「人口動態調査」、「経済センサスー活動調査」、「労働力調査」、「学校基本調査」等、これらの統計データが過去分も含め公開され、データによってはExcelなどのソフトウェアで利用できるものもあります。ぜひ、試してみてください。

[リンク先] <http://www.e-stat.go.jp/> (e-Stat 政府統計の窓口)

[マニュアル・ガイドブック] <http://www.e-stat.go.jp/estat/guide/> (e-Statの活用術)

[注意事項] 統計のデータは、各府省での調査結果に基づいたデータが作成・公表されています。統計調査によっては毎年ではなく、一定の期間おきに行われる調査もあります。そういった統計の調査の性質や調査項目の概要については各府省のWebサイトで確認してください。

使い方(抜粋)

統計については、各種いろいろありますので、使い方については、以下の4つのケースで調べ方の指針を紹介します。

① 調べたい統計資料が決まっている場合

既に調べたい統計資料の具体的な資料名や項目がわかっている場合は、e-Stat のトップページや各府省のWebサイトの統計データを直接見に行ったほうがよいでしょう。

下の画像がe-Stat のトップページです。調べたい資料がわかっている場合は、「統計データを探す」と「調査項目を調べる」で探す便利です。また、統計の名称や作成元がわかっている場合は、直接、各府省の統計のサイトに行ったほうが、統計調査の概要や項目の意味合いを確認できます。それぞれ、自分の目的にあったWebサイトを選択してください。

お問合わせ | ヘルプ | English | 文字拡大・読み上げ

e-Stat
政府統計の総合窓口

数字で見る日本
e-statは、日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイトです。

統計データを探す | 地図や図表で見る | 調査項目を調べる | 統計サイト検索・リンク集 | ログイン

統計データを探す
様々な府省が管理している統計データを検索できます。
 ▶▶ 主要な統計から探す
 ▶▶ 政府統計全体から探す
 キーワード検索(条件指定)

地図や図表で見る
地図や図表により統計データを見える化できます。
 ▶▶ 図表で見る日本の主要指標
 ▶▶ 都道府県・市区町村のすがた
 ▶▶ 地図で見る統計(統計GIS)
 ▶▶ 統計年鑑等の統計書(総務省統計局)

調査項目を調べる
統計データの基本となる用語やコードを説明しています。
 ▶▶ 統計に用いる分類(産業、職業等)・用語
 ▶▶ 市区町村名・コード
 ▶▶ 調査項目を探す

API機能
政府統計の総合窓口(e-Stat)の活用術
アンケート 実施中
ご協力をお願いします
統計について勉強しよう
統計を知る・学ぶ

新着情報 | 公表予定 | お知らせ | RSSによる配信はこちら

NEW! 2014年12月2日 農林水産省 ▶▶ 農業経営統計調査(農産物生産費 速報 平成25年度米生産費) 年次-2013年
 NEW! 2014年12月2日 農林水産省 ▶▶ 漁業経営調査(速報 平成25年度漁業経営調査) 年次-2013年
 UP 2014年12月2日 厚生労働省 ▶▶ 毎月勤労統計調査 全国調査 月次-2014年10月
 NEW! 2014年12月2日 厚生労働省 ▶▶ 労働争議統計調査
 UP 2014年12月1日 農林水産省 ▶▶ 青果物卸売市場調査(確報 平成24年度青果物卸売市場調査報告(産地別)) 年次-2012年
 UP 2014年12月1日 農林水産省 ▶▶ 青果物卸売市場調査(確報 平成24年度青果物産地別卸売統計) 年次-2012年

ランキング
統計キーワード 統計表

利用件数	キーワード
1	108 人口
2	36 都道府県
3	35 がん
4	34 家計調査
5	29 喫煙
6	29 国勢調査

②資料名がわからないが、知りたいことを漠然と考えている場合

利用方法をやさしくナビゲートしてくれる、こちらが便利です。

<http://www.e-stat.go.jp/estat/guide/navigator/question.html> (e-Stat ナビ)

調べたいけど、調べ方や集計方法がわからない方のために、「e-Statナビ」というページがあります。「調べたい『統計調査名』をご存知ですか?」から始まり、知らない場合を選択すると、「キーワードが思いつきますか?」というように、順番に目的の統計調査が見つかるようにやさしくナビゲートしてくれます。



③調べる前に、どんなことが調べられるか具体例を知りたい!

実際に、どのデータを使って、どんな結果が出せるかの事例を見ることができます。

<http://www.e-stat.go.jp/estat/guide/operation/scene.html> (e-Stat 活用術 — 利用シーン —)

このページでは、実際の活用事例が記載されています。「さいたま市と秩父市の世代別人口の推移をグラフに表してみよう」、「バレーボールをする人の割合が最も多い年齢は?」、「二人以上の世帯における、まぐろなどの魚の支出金額を見てみよう」など、興味深い例が提示されていて、その結果やグラフ等の作成方法が、動画やPDFで紹介されています。



④継続的に使いたい!

継続的にe-statを使いたい場合は、ユーザ登録をすると便利です。

<http://www.e-stat.go.jp/estat/guide/operation/scene.html> (e-Stat 活用術 — お役立ち機能 —)

ユーザ登録(メールアドレス等を登録)をすると、自分が知りたい統計等の新着情報をメールで受け取れます。また、選択した統計や「統計データ検索結果」、「新着情報」、「公表予定」、「図表で見る日本のすがた」を表示するマイページ機能も利用できます。継続的に統計データを見たい方は、ぜひ、ご利用ください。



「連鎖する知識」の 楽しみ

大学院（文化科学研究科）
社会経営科学プログラム教授

坂井 素思



文献を探す楽しみは、「連鎖する知識」にあります。これが偉大な発見の楽しみに結びつくこともあるからです。知識が繋がったときに、興奮のあまり風呂場から裸で飛び出し、「ユーレカ! ユーレカ! (わかった! わかった!)」と叫んだ古代ギリシャのアルキメデスの感動にも似たものがあります。図書館の書棚を目指して、到達した本の隣に、ほんとうに欲しい本があったりすると、小躍りしてしまうこともあります。

このような「連鎖する知識」の楽しみを200%以上語った本に、建築評論家W・リプチンスキーの書いた『ねじとねじ回し』があります。この本で「ねじの父」と呼ばれることになるアルキメデスの逸話も紹介されているのですが、それ以上に、文献から文献へ渡り歩くリプチンスキーの興奮が伝わって来る書物なのです。

さて、あるとき、リプチンスキーの元へ編集者から依頼が無い込みます。「最高の道具について書いてくれ」と。ここから、彼のめくるめく文献渉猟の旅が始まるのです。「ねじとねじ回しの起源を探る」というテーマを選択するに至るまでも、もちろん面白いのですが、それ以上に、職人たちの書物や、道具類の歴史書や、さらには、街の図書館や博物館を回ることで、知識がぐるりと連鎖していくのを体験することになります。

最初は、誰もが思いつくオックスフォード語源辞典やディドロ・ダランベールの『百科全書』の図版(1765年)などからスタートするのです。そして、数々の名著を辿って、『中世の暮らし』(1475年頃)に至る頃には、知識が知識を呼んで連鎖を形成し、著者の言葉を使うなら、「ブレークスルー(突破)」が生ずることになるのです。個別に手に入った情報・知識が、あるときから急速に「連鎖する知識」として立ち上がり、ブレークスルーするのです。これまで見えなかったものが、突如として、見えてくるのです。単に、横に連なる知識が加算されるのではなく、次元の異なる知識のネットワークが立ち現れるのです。

もちろん、知識の連鎖が皆目見えてこない道具や発明品もあると、リプチンスキーは指摘します。わたしたちがふつう手にする洋服の「ボタン」がそれです。装飾としてのボタンは存在しましたが、機能的なボタンとボタン穴が歴史に登場する

のは、13世紀になってからで、降ってわいたように現れたらしいのです。現代から近代、近世から中世を辿っても、連綿とした知識の記憶がそこまでは繋がったとしても、始まりのほんとうの起源はわからないのです。

翻って、このことからわかるのは、「ユーレカ」状態に達するまでは、自分はこの「連鎖する知識」の外側にいるのだという事実です。つまり、「連鎖する知識」が見えた時に、はじめて自分が無知であったことを知るのです。じつは、わたしたちが真に感動するのは、連鎖の中に居なかった「よそ者」として、自分が見えてくるときです。無知者たる自分を発見するのです。

ここで、「連鎖する知識」の楽しみを受ける者は、「連鎖する知識」の内側にいるよりも、外側にいるという、パラドクスに甘んじる覚悟が必要です。断ち切られている知識の連鎖ネットワークの外側に、この無知者は居るからこそ、ネットワークを連鎖させる意味が出てくるのです。ここで「発見」とは、識者が個性をもって、何か新しいものを見出すことではなく、無知者がそれまで知ることのなかったことを、はじめて知る喜びを得て、「連鎖する知識」のネットワークの内側へ入っていくことなのです。とりわけ、文献を探す楽しさは、無知である者が、この知識の間に潜むネットワークを求めて、ここに身を委ねるところにあるのです。

あえて言うなら、無知者こそ、「連鎖する知識」を最もよく理解する者たり得るのです。無知者は考えます。知識と知識の間に、何があるのだろうか。自分の考えが至らなかったのは、なぜなのだろうか。そして、おもむくに、「連鎖する知識」の内側へ旅立っていくのです。「ユーレカ! (わかった!)」の興奮と知識連鎖の楽しみの扉を開いて。

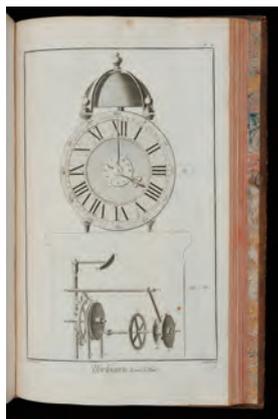
本稿で取り上げた図書

『ねじとねじ回し：この千年で最高の発明をめぐる物語』

ヴィトルト・リプチンスキー著；春日井晶子訳。-- 早川書房、2003。

所蔵館	配置場所	請求記号	資料ID
本部	一般図書	531.4/R93	11117345486

*附属図書館で所蔵しています。



ディドロ、ダランベール編集『百科全書』の図版より

L'encyclopedie, ou Dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers, par une Société de Gens de Lettrés, 1751-1780

*附属図書館で所蔵しています。

5 電子書籍を使う

電子書籍を利用する

電子書籍は、紙に印刷された冊子体の書籍ではなく、インターネットを経由して、パソコン等の画面で閲覧する書籍です。インターネットが使える環境であれば、いつでもどこからでも、場所や時間の制限なく、利用したいそのときに利用することができます※。また、目次や索引だけでなく、書籍本文から検索することができるなど、紙の資料ではできない使い方、読み方もできます。

この章では、放送大学で契約している3つの電子書籍サービスについて、紹介します。

※自宅等、放送大学のキャンパス外から利用される場合は、リモートアクセスにログインしてからご利用ください。

[NetLibrary (EBSCOhost eBook Collection)]

EBSCO社が提供する電子書籍サービスです。日本語だけでなく、英語を中心とした海外の電子書籍も合わせ、約1万8千タイトルの電子書籍を利用できます(2015/1/30時点)。

同一タイトルを同時に閲覧できるのは1名までです。閲覧終了時は画面左上の「新規検索」のリンクをクリックして、全文表示を終了してください。本文の印刷・保存は60ページまで可能です。

マイEBSCOhostにサインインすると(EBSCOhostでのアカウント新規作成が必要です)、ノートの保存や、検索結果をフォルダに入れて管理等を行うことができます。

PDF形式で本文を保存 (ファイルを指定アドレスに送信) できます (60ページまで)。

該当の電子書籍の書誌情報(タイトル・著者名等)を引用形式にあわせて表示、エクスポートできます。

ページ表示の変更、拡大・縮小、ページめくり(矢印ボタンで前後のページへ移動)を行うことができます。

【Maruzen eBook Library】

丸善株式会社が提供する電子書籍サービスで、日本の学術書籍を中心に約2千点を利用することができます(2015/1/30時点)。同一タイトルを同時に閲覧できるのは1名まで、本文の印刷・保存は60ページまで可能です。閲覧終了時は画面右上の「閲覧終了」のボタンをクリックしてください。

「タイトル」「本文」など、検索したい部分を選択し、検索語を入力します。本文全文を閲覧可能なタイトルのみ検索したい場合は「購読契約しているタイトルから検索」にチェックを入れて、検索ボタンをクリックしてください。

「印刷/保存」をクリックすると、PDF形式で本文を保存できます(60ページまで)。「エクスポート」をクリックすると、該当書籍の書誌情報(タイトル・著者名等)を、形式を選んでエクスポートできます。

【SpringerLink eBooks】

Springerグループが提供する電子書籍サービスです(同じ画面で、Springer社の電子ジャーナルも検索・閲覧できます)。レクチャーノートシリーズ(Lecture Notes in Computer Science, Lecture Notes in Mathematics, Lecture Notes in Physics)を含むSpringer社の出版する電子ブック約2万8千タイトル(2005-2012年出版)が利用できます(2015/1/30時点)。同一タイトルの同時ユーザー数に制限はなく、保存/印刷は章単位のほか、全ページを1ファイルでダウンロードすることができます。

(鍵マーク)がついているものは契約対象外のため、全文を閲覧することはできません。

このボタンをクリックすると、本文全文をダウンロードできます。章ごとにダウンロードしたい場合は、章タイトルの下にあるダウンロードのリンクをクリックしてください。

『学術論文の技法』 の思い出

大学院（文化科学研究科）
人文学プログラム教授

青山 昌文



論文の書き方をテーマとする書物は、現在多数出版されています。レポート程度の短いものを主として対象としたものや、理科系の論文の書き方に特化したものなどもあって、私が学生だった頃に比べて多種多様になっているのですが、しかし、私の専門の美学・芸術学、更には哲学、そして広く言って人文学の分野の論文の書き方の書物として、数ある類書の中で今でも比較を絶して優れているのが、斉藤孝・西岡達裕著の『学術論文の技法』（日本エディタースクール出版部）です。

斉藤孝という名前を目にすると、著作が極めて多数ある明治大学教授を思い浮かべる方がいらっしゃるかもしれませんが、この書物の斉藤孝は、同姓同名の別の学者であり、スペイン戦争などの20世紀の国際政治史研究で高名だった歴史学者です。

論文の書き方の専門家ではない、歴史学者が書いたこの『学術論文の技法』には、実は私の個人的な思い出があります。

そもそも何故歴史学者が論文の書き方をテーマとする書物を出版したのかと言えば、それは、自分が教える学生達に、歴史学の専門的学術論文の書き方を伝授したいという強い思いがあったからでした。斉藤教授は、パソコンはおろか、まだ、機械としてのワープロも出現していない時代に、「ガリ版」で数十頁の手書きの文書を自作し、学生に配布したのです。「ガリ版」とは、ロウ紙に、鉄筆でガリガリと手書きすることによって、自分が書いた文字部分だけがロウが削れてインクが通過するようになることを利用した謄写版印刷のことで、手書きの筆者の文字の字体のクセがそのまま刷り上がる手書き印刷です。

この斉藤教授の「論文の書き方」文書は、東京大学大学院の西洋史学の学生が修士論文を書くために役立つようにと執筆・印刷・配布されたものでした。私は、東京大学の教養学部と文学部の2つの学部を卒業しましたが、教養学部は教養学科フランス科であり、文学部は美学芸術学科であって、いずれも西洋史学科ではなく、また大学院も東京大学大学院美学芸術学科であって、西洋史学科ではありません。しかし、私の弘前高校時代の同級生が、東京大学西洋史学科の

学生だったために、「参考になるだろうからお前にも1部あげる」と言って、そのガリ版の手書き印刷による「論文の書き方」を私にくれたのです。

そして、確かに、この斉藤教授の手書き印刷による「論文の書き方」は、西洋史学の学生ではない私にも、大いに役立ったのです。私は斉藤教授の人格が良く現れている手書きの文字の文書を熟読することによって、厳密な学の方法論を少しずつ身につけていったのでした。そして、この文書は、その学問的評判の高さの故に、そののち様々な形を経てますます充実してゆき、今日におけるような立派な書物として、今でも、日本における最高の文科系の学術論文の書き方の書物であり続けているのです。

外国における最高の文科系の学術論文の書き方の書物についても、最後に紹介しておきましょう。それは、映画にもなった小説『バラの名前』の著者であるウンベルト・エーコがイタリアの学生のために書いた『論文作法』（而立書房）です。記号論の現代思想で有名なエーコですが、元々は、中世のトマス・アクィナスの美学の研究で博士号を取得した美学者であり、『論文作法』は、極めて率直にして有益なアドバイスに満ちた学術論文の書き方の書物なのです。

『学術論文の技法』と『論文作法』の2冊をお読みなれば、文科系の学術論文が如何に厳密で緻密なものであるかが分かります。皆様も、是非、これらの2冊の書物をお読みなってみてください。

本稿で取り上げた図書

『学術論文の技法』

斉藤孝, 西岡達裕著. -- 新訂版. -- 日本エディタースクール出版部, 2005.

所蔵館	配置場所	請求記号	資料ID
本部	一般図書	816.5/Sa25	11118283959

*版違いの図書も附属図書館等に所蔵があります。

『論文作法：調査・研究・執筆の技術と手順』

ウンベルト・エーコ著；谷口勇訳. -- 而立書房, 1991.

所蔵館	配置場所	請求記号	資料ID
本部	一般図書	816.5/E19	11115165499
本部	2階保存一般	816.5/E19	11115165507

*このほか、学習センター図書室にも所蔵があります。



6 資料の入手方法1

【本学所蔵資料及び資料コピーの入手方法】

- ・本学所蔵資料を、直接来所または附属図書館・他学習センターからの取り寄せで利用できます。調査には放送大学OPAC (<http://webopac.ouj.ac.jp/>) を利用してください。
- ・学外からの入手等を検討したい場合は、『7.資料の入手方法2』(P.29)を参照してください。
- ・学内・学外いずれの資料を利用する場合も、利用条件や返却期限日等を遵守してください。
- ・附属図書館所蔵資料の現物取り寄せの場合、以下に留意してください。
 - ①貸出冊数には附属図書館カウンター及び学習センター経由での資料貸出冊数を含まず。
 - ②他資料の延滞がなく、また返却期限内に他の利用者の予約が入っていない場合、一般図書等は1回のみ貸出期間の更新ができます(更新処理をした日から、返却期限日を起算します)。
 - ③延滞中・貸出停止中の期間は新規に資料の貸出ができません。
- ・詳細は「取寄せサービス」(<http://lib.ouj.ac.jp/ill/ill-gaiyo.html>)を参照してください。

【附属図書館資料の複写(コピー)依頼】 **有料**

サービス対象者…本学学生(休学者を除く)、教職員

料金…モノクロ1枚10円、カラー1枚50円(送料不要)

申込方法…学習センター等窓口で申込書に記入のうえ申し込み、または放送大学OPACから申し込み

受取方法…料金等を連絡いたしますので、学習センター・サテライトスペースに来所のうえ、受け取ってください。自宅等への発送はできません。

放送大学OPAC「詳細検索」画面



学内からの現物取り寄せの場合
“予約”または“自宅配送”ボタンを
クリックし申し込み。

複写依頼の場合
“ILL複写依頼”を
クリックし申し込み。

【学内からの資料現物の取り寄せ】 **無料**

サービス対象者…本学学生(休学者を除く)、教職員

申込方法…学習センター等窓口で申込書に記入のうえ申し込み、または放送大学OPACから申し込み(予約ボタンが表示されている本部資料)

受取方法…受取希望館に資料到着後、連絡いたします。附属図書館、学習センター・サテライトスペースでの受け取りとなり、自宅等への発送はできません。

※参考図書・一般AV資料・閉講放送教材・未製本雑誌等は館内利用のみで貸出不可です。

【附属図書館資料の自宅配送】 **有料**

サービス対象者…大学院博士全科生・修士全科生・学部全科履修生(休学者を除く)

料金…往復分の送料(往分は宅配便着払) **貸出期間**…1ヶ月

申込方法…申込書に記入のうえ附属図書館に郵送/FAX、または放送大学OPACから申し込み

【放送教材館外貸出】 **有料**

郵送(第4種郵便)により履修中の科目・再試験科目の放送教材を貸出できます。申込先は所属学習センター(千葉のみ附属図書館)です。詳細は所属の学習センターにお問い合わせしてください。

図書館でのひととき

大学院（文化科学研究科）
臨床心理学プログラム教授

倉光 修



長年、学問の府に身を置いて、私ほど図書館に通わない人間は珍しいでしょう。自分のアイデンティティは学者ではなく、臨床心理士というpractitionerだから、書物や論文よりも実践から学ぶのだなどと合理化しようとは思いません。図書館は知識と知恵のまさに宝庫で、不勉強な私には、書棚を眺めているだけで心の時空間が広がる気がすることがあります。放送大学に赴任して、小野けい子先生に図書館を案内していただき、チベットのすばらしい絵入りの古書を開いたときには心が震え、一生かけても図書館の蔵書が全部読めないのが残念だと嘆いていた学生のまなざしが脳裏に浮かんできました。

先日、図書館を利用して最新の情報を入手している学生が多いことに気づかされる出来事がありました。私の分野ではアメリカの精神医学会が出している「診断・統計マニュアル」が参照されることが多いのですが、最新版の訳書は重い（しかも高い）ので、私は購入しませんでした。しかし、あるとき、どうしても確かめたいことがあったので図書館に探しに行ったところ、すでに学生が借りていて、その次の学生の予約も入っていたのです。当分、入手できないでしょうと係の人は気の毒そうに言います。少し残念でしたが、やはり、この本は自費で買うべきだと心の中で呟きながら、学生諸君の向学心を嬉しく思ったことでした（本書は皆さんの利便も考えて、その後、あと2冊、図書館で購入していただきました）。

ご案内の通り、本学の図書館にはディスカバリーサービスという新しい検索システムが導入されました。図書情報委員として、私も少しは知っておくべしと説明会に出かけましたが、私の探していた論文はプリントアウトまでいならず、なかなか要領を得ないままに終わってしまいました。しかし、参加していた学生の皆さんは、新システムに目を輝かせ、機敏に質問しては新たな技能をすぐに身につけていくようで、本当に感心しました。

私が大学生の頃は、データベースから論文を探すという手段はありませんでした。怠け者の私は、図書館に行って和雑誌の最近10年分くらいのタイトルだけを見て、関心を引

かれる論文を少し読み、そこに記載されている引用文献にあたっていくという、いわば、芋づる式の文献検索法にたよっていました。コンピュータを駆使して著書や論文を探す方法を学んだのは、中年になってからです。初めのころは、キーワードを入れて検索ボタンを押すと、300編以上の英論文が、折りたたまれた幅広の紙に続々と打ち出されてきて、嘆息したのを覚えています。

現代の学生諸君は、書棚を眺めて学問の世界の高山や深海に想いをはせ、コンピュータの画面を通して広域の（しかも、いくらでも拡大できる）地図を入手するのでしょうか。このような状況では「青は藍より出でて、藍よりも青し」。皆さんの情報収集能力には脱帽し、私はその後の思索や実践のお手伝いできればと思っています。

本稿で取り上げた図書

『DSM-5精神疾患の診断・統計マニュアル』

American Psychiatric Association [編]；高橋三郎、大野裕監訳；染矢俊幸 [ほか] 訳。-- 医学書院, 2014.

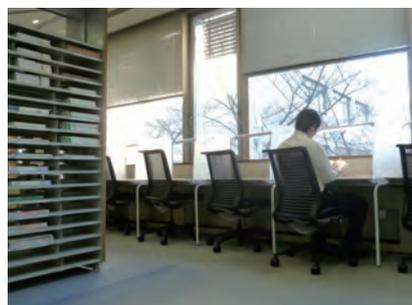
所蔵館	配置場所	請求記号	資料ID
本部	一般図書	493.7/D92	11118799447

『精神疾患診断のエッセンス：DSM-5の上手な使い方』

アレン・フランセス著；大野裕、中川敦夫、柳沢圭子訳。-- 金剛出版, 2014.

所蔵館	配置場所	請求記号	資料ID
本部	一般図書	493.7/F43	11118790825

*2タイトルともに、附属図書館（千葉市）に所蔵があります。



資料の入手方法2

他大学等図書借用・文献複写の取り寄せ・直接来館利用

放送大学では電子ジャーナルや電子ブックが読めない場合や、放送大学に図書や雑誌の所蔵がない場合、資料を所蔵する学外の図書館から図書を借用したり、複写物を取り寄せることができます(※有料サービス)。また、所蔵している館に直接行き、閲覧利用をすることもできます。

サービス対象者は、本学学生(休学者を除く)、教職員です。延滞資料がある場合や貸出停止期間は、サービスを受けられません。

【学外からの図書借用・文献複写の取り寄せ】 有料

放送大学図書館では国内の図書館からの図書借用・文献複写の取り寄せを行っております(海外からの取り寄せは不可)。また学習センター・サテライトスペースに発送、料金の受け渡し等が発生しますので、ご自宅までの発送はしていません。また原則申込後のキャンセルはできません。やむをえずキャンセルする場合も、キャンセル時にすでに発生した送料などの費用を負担していただきます。

●図書借用

他大学図書館等や国立国会図書館から図書を借用することができます(※国会図書館からの借用は、他大学図書館等に所蔵がない場合等に限られます)。借用した図書は、相手館が制限している場合、図書館(室)内での利用に限ります。借用に伴う送料は利用者の負担となります。放送大学OPACから申し込むか、図書館・学習センター等の窓口で申し込みしてください。

申し込みから資料の到着までは、おおむね1～2週間ほどかかります。また送料の負担は、他大学から附属図書館までの片道分となります(附属図書館から他大学までの返送料は本学で負担します)。送料は、図書の重量によって異なり、通常は500円～800円程度です。

●文献複写

資料を所蔵している図書館から複写物を取り寄せることができます。複写料金(1枚35円～50円程度)及び送料は利用者の負担となります。放送大学OPACから申し込むか、図書館・学習センター等の窓口で申し込みしてください。申し込みから到着までは、おおむね1～2週間ほどかかります。

〈注意〉文献複写は著作権法で認められた範囲内で申し込みしてください。

(1)個人の調査・研究を目的とすること (2)著作物の一部分であること(一部分とは著作物の半分以下を指します。ただし定期刊行物に掲載された個々の論文記事は(4)の条件を満たす場合に全部複写できます) (3)一人につき一部であること

(4)定期刊行物に掲載された個々の論文は発行後相当期間を経過したものであること(発行後相当期間とは「次号が発行されるまでの間」または「発行後3ヶ月」とされています)

学位論文の入手

学位論文の探し方については、『トピックス-2』(P.32)で紹介していますが、インターネット上で公開されていない学位論文を入手したい場合は、どうすればよいのでしょうか？

修士論文、卒業論文は公表を前提としない論文のため、閲覧や複写物の取り寄せは難しいのが現状です。但し各大学によって取り扱いが異なるため、文献複写を申し込みされた場合、可否を確認します。博士論文は公表された著作物であるため、文献複写の場合、半分以下まででしたら依頼可能です。博士論文は、博士の学位を授与した大学と国立国会図書館(関西館)に所蔵されていますが、禁帯出資料の扱いになっているため、現物の図書借用はできません。博士論文の全文を閲覧したい場合、直接所蔵している図書館に閲覧しに行く、または著者に全文複写の許諾書をもらい、全文の文献複写申し込みをする、のいずれかになります。※全文複写許諾書取得は申込者ご本人に行ってください。必要項目などは附属図書館に問い合わせしてください。

●申込方法

申し込み前に、「取寄せサービス」のWebページ(<http://lib.ouj.ac.jp/ill/ill-gaiyo.html>)も参照してください。電子ジャーナル等で論文全文が閲覧可能な場合もありますので、申し込みの前に確認してください。また、近くの公共図書館や連携協力大学図書館で所蔵している場合もありますので、他機関の図書館利用も検討してみてもいいかもしれませんか？

・用紙での申込方法 (http://lib.ouj.ac.jp/use/application_list.htmlに様式あり)

附属図書館や学習センター窓口にある申込書に必要な事項を記入し、申し込みしてください(FAXや郵送では依頼不可)。申込書は附属図書館Webページからもダウンロードできます。

・OPACからの申込方法

放送大学OPACの「他大学検索」で雑誌や図書のタイトルを入れて検索してください(論文名では検索できませんのでご注意ください)。検索結果画面の「ILL複写依頼(コピー取り寄せ)」、「ILL貸借依頼(現物借用)」のリンクから申し込みできます。ログインに使うID/パスワードは「システムWAKABA」「キャンパスネットワークシステム」と共通です。

なお「他大学検索」では国会図書館所蔵資料は検索できません。NDL-OPAC(<https://ndlopac.ndl.go.jp>)で検索してください。

「他大学検索」では検索できない資料を申し込む場合は、OPAC検索画面トップの「利用状況照会・申込」のボタンをクリックし、表示されるメニュー「ILL複写依頼(有料サービス)」、「ILL貸借依頼(有料サービス)」から申し込みできます。

OPACからの申込方法について詳しくは、OPAC上の「OPAC利用マニュアル」を確認してください。

・リンクリゾルバからの申込方法

放送大学ディスカバリーサービスやCiNiiの検索結果に表示される「関連情報をみる」「放送大学関連情報」「関連情報」のアイコンをクリックすると、リンクリゾルバの画面が表示されます。表示された画面内の「他大学等文献複写申込」のリンクをクリックしてください。検索結果の論文書誌データを流用して文献複写申込ができます。

※CiNiiで「関連情報」のアイコンが表示されるのは、学内からお使いいただいた場合やリモートアクセスでお使いいただいた場合のみになります。

●申込内容の確認、受取

OPACから申し込まれた場合、自動で依頼内容が記載された受付メールが送信されます。また、OPAC検索トップ画面の「ログイン」アイコンからログインすると複写・貸借依頼をしている資料の確認ができます。

受取希望館に資料が到着後、学習センター・サテライトスペースよりご連絡を差し上げます。その際に料金を通知します。なるべくお釣りのないよう用意してください。一部相手館の条件により、銀行振込・郵便振替になる場合があります。

【直接来館利用】

●連携協力大学図書館の利用について

ご所属の学習センターによっては、大学間の申し合わせにより地元の大学附属図書館の利用(閲覧・貸出)ができます。ご所属の学習センターの連携協力大学図書館は下記Webページで確認できます。

「学習センター近隣の大学図書館一覧」<http://lib.ouj.ac.jp/renkei.html>

利用方法など詳細は、ご所属の学習センターへ問い合わせしてください。閲覧したい資料があるかどうかは、各大学図書館のOPACを検索すると確認できます。

「日本図書館協会 大学図書館リンク集」<http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/169/Default.aspx>

●公共図書館の利用について

文庫、新書、入門書など、お住まいの地域の公共図書館で利用できる資料も多くあります。また、お近くの公共図書館には所蔵がなくても、県内の公共図書館からは無料で取り寄せ可能な場合がありますので、利用している公共図書館で確認してください。

閲覧したい資料があるかどうかは、各公共図書館のOPACを検索すると確認できます。

「日本図書館協会 公共図書館リンク集」<http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/172/Default.aspx>

※個別の図書館へのリンク以外に、県内公共図書館横断検索があれば、まとめて検索できます。

また、公共図書館などを含めた複数の図書館の所蔵をまとめて検索できる「カーリル」という検索サービスもあります。自分で検索したい図書館を選ぶことができます。Amazonへのリンクもあり、販売情報等の確認もできます。利用方法について詳しくは下記カーリルのWebページを確認してください。

「カーリル」<https://calil.jp/> (カーリルについて はじめての方へ)<http://calil.jp/doc/about.html>

●他大学図書館等の利用について(連携協力大学図書館以外)

他大学図書館の所蔵については、CiNii Books(<http://ci.nii.ac.jp/books/>)で検索可能です。検索結果から大学所在地域での絞り込みもできます。貸出状況など、詳しくは各大学図書館のOPACを検索して確認する必要があります。

図書館によって、事前連絡が必要なところや、紹介状が必要なところなどさまざまですので、資料を閲覧しに行きたい図書館が決まったら、学習センター図書室窓口に相談してください。

紹介状発行には数日程度かかる場合もあるので、日程に余裕をもって申し込みしてください。

【学生図書リクエスト】

本学には所蔵していないが学習に不可欠で、購入を希望する図書館資料がありましたら、附属図書館にリクエストすることができます。サービス対象者は、学部全科履修生、選科履修生、大学院博士全科生、修士全科生、修士選科生(休学者、図書の延滞者及び貸出停止中の者を除く)です。その他詳しくは、下記Webページ「学生図書リクエスト」の項目を確認してください。

「学生図書リクエスト」<http://lib.ouj.ac.jp/use/service.html>

国立国会図書館の登録利用者制度

NDL-OPAC(<https://ndlopac.ndl.go.jp/>)は、国立国会図書館の所蔵資料の検索・申し込みができるシステムです(資料の申し込みをする場合は、下記登録が必要です)。

国立国会図書館に個人的に登録すると、複写物を自宅へ送ってもらうことができます(有料)。ただし国立国会図書館に所蔵があるものだけになります。

国立国会図書館の登録利用者制度 <http://www.ndl.go.jp/jp/information/guide.html>

国立国会図書館の遠隔複写サービス <http://www.ndl.go.jp/jp/service/copy3.html>

●放送大学の修士論文の閲覧について

附属図書館では、過去3年分の修了生の修士論文のうち、執筆者が閲覧を許諾しているものを保管しています。これらは、本学の学生・教職員・卒業生に限り閲覧することができます。

修士論文の閲覧を希望される方は、附属図書館(千葉市)において「年度別修士論文一覧」を参照し、閲覧が可能な修士論文について、所定の申込書に必要事項を記入の上、閲覧を申し込んでください。なお、臨床心理学プログラムの修了生の修士論文は非公開としており、閲覧できません。

複写や附属図書館の外への持ち出しはできないため、附属図書館内のみでの閲覧となります(学習センター図書室への取り寄せ対象外です)。

参照)「修士論文の閲覧について」(放送大学)
http://www.ouj.ac.jp/hp/gakuin/syushi_ronbun.html

●学位論文の探し方

学位論文とは学位をもらうために提出する論文のことで、博士論文、修士論文、卒業論文があります。修士論文、卒業論文は公表を前提としない論文のため、閲覧は難しいのが現状です(放送大学の修士論文の閲覧については、前項を参照)。ここでは日本の博士論文のさがし方を中心に紹介します。

①国立国会図書館でさがす

国立国会図書館では、大正12(1923)年9月以降の国内博士論文を所蔵しています。NDL-OPAC (<https://ndlopac.ndl.go.jp/>)にアクセスし、詳細検索画面で資料種別を「博士論文」のみにチェックをした上で、キーワード等を入力し、検索してください。なお、電子形態のみの所蔵の場合は、NDL-OPACでは検索できませんので、国立国会図書館デジタルコレクション(<http://dl.ndl.go.jp/search/detail>)にアクセスし、資料群の「博士論文」にチェックを入れて検索してください。

参照)「国内博士論文」(国立国会図書館-リサーチナビ)
http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-100044.php

②JAIROでさがす

学術機関リポジトリポータルJAIROとは日本の学術機関リポジトリに蓄積された学術情報(学術雑誌論文、学位論文、研究紀要、研究報告書等)を横断的に検索できるサービスです。

学位規則改正により、平成25(2013)年4月以降に学位授与大学等が授与した博士の学位に係る博士論文は、学位授与大学等を通じてインターネットで公表されることになりましたので、リポジトリに登録された博士論文はJAIROを通して、検索・閲覧することができます。

検索するには、JAIRO(<http://jairo.nii.ac.jp/>)にアクセスし、詳細検索画面で「資料種別」の一覧から「学位論文」を選択した上で、キーワード等を入力し、検索してください。(検索結果には、博士論文だけでなく、「学位論文」として登録されているものが含まれます。また、必ずしも全文まで閲覧できるものではありません。)

※海外の博士論文の検索については、「海外博士論文(総論)」(国立国会図書館-リサーチナビ)等を参考にしてください。
http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-400041.php

CHECK!

放送大学機関リポジトリManapiO

②でも少し触れましたが、大学等の研究機関では、その知的生産物を電子的形態で集積し、保存し、無料で公開するために「リポジトリ」と呼ばれる電子アーカイブシステムを設置しています。放送大学でも、2013年10月より「放送大学機関リポジトリManapiO(まなびお)」を公開しています。ManapiOでは「放送大学研究年報」などの学内刊行物、放送大学附属図書館で所蔵するちりめん本等貴重書の画像データ等を公開しています。

放送大学機関リポジトリ ManapiO
[\(http://ouj.repo.nii.ac.jp/\)](http://ouj.repo.nii.ac.jp/)



「先行研究が無い」ということ

大学院（文化科学研究科）
情報学プログラム准教授

高橋 秀明



研究には、オリジナリティー（独創性）が必要であると言われる。どんな小さな問題であっても、世界で初めてその問題に対してアプローチして、何らかの解決を導くことが、研究の醍醐味であるとも言われます。このことは、研究をする本人にとって大切なことですが、その研究を評価する人（指導教員や学会誌の査読者ばかりでなく、研究をする本人のまわりにいるすべての人）にとっても、大切なことです。

通常は、先行研究を調べてから、当該の研究領域の現状を把握して、自分自身の研究の目的を決めていきます。つまり、先行研究に何らかの問題を見つけて、その問題を解決することを、自分の研究の目的とすることになります。

ここまで、すんなりと読むことができましたか？ 実は、大いなる矛盾があると思うのですが、いかがでしょう？

先行研究を調べる、と書きましたが、それほど単純なことでしょうか？ 研究の文脈が決まっており先行研究の蓄積があるような研究領域であれば、文字通り先行研究を調べることによって、まだ行われていない研究目的を設定することは比較的容易であると思います。しかし、これでは、研究のオリジナリティーはあまり高くなく、組織的な追試のレベルに留まると評価される可能性が高いと思います。もちろん、追

試自体には、科学という営みにおいて大いに意義がありますが。

一方で、研究の文脈がはっきりしなくて、先行研究の蓄積がほとんどないような研究領域もあることは事実です。しかし、そもそもそのような研究を行うためには、周囲（特に指導教員や研究室の仲間達）の理解を得ることが難しくなることも多いと思います。

放送大学の卒業論文や修士論文の研究指導に関わってきた数年経ちましたが、「先行研究が無い」という学生の皆さんに出会うことが多いなあという印象を持っています。学生の皆さんが先行研究を調べていないとか、先行研究を調べる方法を知らない、ということもあります。教員の立場としても、自分の研究領域を外れてしまうと、先行研究の最新の状況を抑えていない、ということも往々にして起こります。科学の細分化、ということです。

一方で、学生の皆さんが持っている問題意識が、従来の科学や学問の枠組みを超えてしまう、あるいはその枠組みを壊してしまう、ということもあると思っています。2014年度から放送大学に博士（後期）課程が設置されましたが、その設置準備のための学内委員会に参加していた時にも、同じようなことを感じておりました。

研究指導にあたっては、学生の皆さんの「問題意識」をできるだけ広く深い視点から見渡して、ご自身の研究として具体化できるように接していきたいと思っています。このことは、私自身の問題意識や教育・研究活動を見直す際にも、同じだなと思っています。



8

文献の利用方法と管理

参考文献の役割

研究を進めていく上で、他の研究者が著述した先行研究の文献を読むことはとても重要です。このガイドでは、そういった既に執筆・公表された膨大な図書、論文、学術情報から必要な文献を探すための情報探索ツール（Webサイト）等を紹介してきました。そうして入手した文献の内容を、自分の書く論文に引用する場合は一定のルールがあります。その表現方法を間違えると、「剽窃^{ひょうせつ}」や「盗用」として疑われたり、場合によっては罪に問われる事もあります。自分の意見と他人の意見と区別して明確にわかるように記述する、「出典の明示」が必要です。また、そういった正しい引用をすることで、論文での自分の意見に客観的な「信頼性」が増します。正しい引用の仕方や参考にした文献の明示に心がけ、執筆しましょう！

【引用文献・参考文献】

分野によっては、「引用文献」、「参考文献」を区別せずに「参考文献」または「参照文献」と呼ぶこともありますが、ここでは、分かりやすくするために区別して説明します。「引用文献」とは、本文中に明示した文献です。本文中で他人の意見を書いている場合は、必ず、他人の意見であることがわかるように明示すること（出典の明示）が必要です。「参考文献」とは、本文中では触れないが、執筆全体を通じて利用した文献のことです。なお、他の著作物の写真や図表を転載することは、通常、この引用条件範囲を超えると考えられることが多いので、著作権者の許諾が必要です。

引用・参考文献の書き方は、各分野や雑誌によってルールがあります。代表的なものとして、「SIST 02」を紹介します。（*雑誌等に論文を投稿する場合は、必ず、その雑誌のルールの確認や指導教員に相談してください。）

【SIST 02(科学技術情報流通技術基準 参照文献の書き方)】

SIST(:Standards for Information of Science and Technology=科学技術情報流通技術基準)は、旧科学技術庁が開始した事業で、文字通り、科学技術情報の流通を円滑にするために作成された基準です。その基準の中の「SIST 02」は「参照文献の書き方」で、科学技術論文の参照文献を示す際に記述する表記法、記述順序等の原則や指針を示すものです。最新の基準はSIST 02:2007です。

(このSIST事業自体は2012年3月で終了となっておりますが、この基準自体は公開されており、日本では標準的な基準となっています。)

【参考】「参考文献の役割と書き方」http://sti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf

「科学技術情報流通技術基準 参照文献の書き方」http://sti.jst.go.jp/sist/handbook/sist02_2007/main.htm

引用・参考文献 書き方例

では、具体的に代表的な書き方を例示してみます。なお、下はSIST 02 に準じた一例です。学術雑誌等に論文を投稿する際には、必ず、その雑誌のルールを確認してください。 *以降の例文の文献はすべて架空の文献です。

【図書(単行本)の場合】

著者名、書名、版表示、出版地、出版者、出版年、総ページ数、(シリーズ名、シリーズ番号)、ISBN.

*記号「,」「.」は半角で統一。「」は半角スペース。出版地、シリーズ名、シリーズ番号、ISBNは任意記述項目で省略可能。総ページ数はページ数の後に「p.」を付加。

例

〈本文中での引用例〉

まなぴーは、「放送大学イメージキャラクターとして2008年に誕生しました。デザインは漫画家のこうの史代さん」(放送大学学園 2010:211)により、作成され……

〈引用文献・参考文献リスト〉

放送大学学園. 放送大学年史. 改訂版, 千葉, 若葉出版, 2010, 455p.

【雑誌論文の場合】

著者名、論文名、誌名、出版年、巻数、号数、はじめのページ-おわりのページ.

*記号「,」「.」は半角で統一。「」は半角スペース。

例

〈本文中での引用例〉

「4Kや8Kなどの高精細画像放送の可能性について論じてきたが、重要なのはあくまでもコンテンツ(授業内容)である」(幕張太郎 2014:41)と述べているように、……

〈引用文献・参考文献リスト〉

幕張太郎. 4Kと放送授業の未来. 放送授業技術研究. 2014, vol. 12, no. 2, p. 40-45.

また、引用文献・参考文献と本文の関連付けには、バンクーバー方式とハーバード方式があり、どちらかで書かれることが多いようです(前述での例は、ハーバード方式で書いています)。

【バンクーバー方式(引用順方式)】

本文の参照箇所に引用順に連番(例えば、¹⁾²⁾³⁾…)を振り、文献リストの記載の際に、その順番で記述する方式です。

例

幕張¹⁾は、「4Kや8Kなどの高精細画像放送の可能性について論じてきたが、重要なのはあくまでもコンテンツ(授業内容)である」と述べているように、……

〈引用文献・参考文献リスト〉

1) 幕張太郎. 4Kと放送授業の未来. 放送授業技術研究. 2014, vol. 12, no. 2, p. 40-45.

【ハーバード方式(著者名・発行年方式)】

本文での参照箇所にカッコ()を挿入して、カッコ中に(参照している文献の著者名 出版年:該当ページ)を記述し、文献リストの記載の際には、著書名・発行年順に記述する方式です。

例

「4Kや8Kなどの高精細画像放送の可能性について論じてきたが、重要なのはあくまでもコンテンツである」(幕張太郎 2014:41)と述べているように、……

〈引用文献・参考文献リスト〉

海浜花子. 災害時の放送設備. 放送授業技術研究. 2014, vol. 12, no. 2, p. 30-39.

放送大学学園. 放送大学年史. 改訂版, 千葉, 若葉出版, 2010, 455p.

幕張太郎. 4Kと放送授業の未来. 放送授業技術研究. 2014, vol. 12, no. 2, p. 40-45.

引用文献・参考文献の書き方いろいろ

ここまで、SIST 02 に基づいた日本の科学技術論文での引用文献・参考文献リストの書き方について紹介してきました。引用文献・参考文献の書き方は、学術分野や雑誌によって、さまざまなスタイル(記述法)があります。こんなに違うという例を紹介します。

【文科系日本語著書・雑誌論文の場合】

共通事項として、①単行本名は『 』、論文名は「 」で囲む。②()内に書誌情報を付ける。などがあります。以下に一例をあげます。

例

〈単行本〉

記述法: 著者名『書名』(出版社、出版地、出版年)引用頁

記述例: 幕張太郎『歴史と人間』(海浜社、東京、2015年)45～56頁

〈雑誌論文〉

記述法: 著者名「論文名」(『雑誌名』号数、発行者、出版年月)引用頁

記述例: 千葉花子「海と幕張」(『幕張研究』5、幕歴学会、2015年4月)32～33頁

このように、先に書いたSIST 02とは違います。皆さんが論文等を執筆する際は、投稿する雑誌や研究分野でのスタイル(記述法)で記述してください。

文献管理ツール

大量の文献を入手して論文を書いていくとき、引用文献・参考文献の情報をまとめておくと、執筆を進めていく時に、大変便利です。このガイドでは、無料の文献管理ツールを紹介します。

双方とも文献管理だけでなく、論文作成支援機能がついています。具体的には、前頁の引用・参考文献のリストを作成して、文書に挿入することが可能です。興味があったら、ぜひ、試してみてください。

【Mendeley】 <http://www.mendeley.com/>

開発元はMendeley。デスクトップ版とWeb版があり、双方とも無料です。利用するには、アカウントの登録（メールアドレス等を登録）が必要となります。デスクトップ版の方が使いやすいと感じられますが、使用するPCにソフトウェアのインストールが必要です。また、Web版の場合でも、取り込みたいデータベースの種類によっては、Web Importerの登録が必要です。

Mendeley デスクトップ版



これは各人の好みになると考えます。なお、Web版とデスクトップ版は、データの同期も可能です。データを、提供元のサーバ上と個人使用のPC上に保存することができます。

Mendeleyの特徴のひとつは、PDF（文献）を対象とした優れた文献管理機能です。デスクトップ版では、PDFをドラッグ&ドロップするだけで自動的に書誌事項を抽出できます。また、保存したPDF（文献）のフォルダ管理機能やPDFビューア機能も装備され、PDFのテキストをハイライトしたり、注釈の追記も可能です。

【EndNote basic】 <http://ip-science.thomsonreuters.jp/products/enw/>

開発元は、THOMSON REUTERSです。通常は、デスクトップ版を購入してPCにインストールしますが、Web版の「EndNote basic」は無料で利用できます（モバイル版は有料）。放送大学のディスカバリーサービス（EBSCO Discovery Service 以下、EDS）とは親和性が高く、EDSの検索結果を簡単にEndNote basicに取り込むことができます。

EndNote basic



利用するには、アカウントの登録（メールアドレス等を登録）が必要となります。Web版のため、個人のデータの保存場所は、提供元のサーバ上になります。

9 附属図書館について

電子ジャーナルやデータベースの利用方法、文献の取寄方法など、インターネットで利用できるサービスを中心に紹介しましたが、最後に附属図書館について紹介します。

放送大学附属図書館は千葉県千葉市の放送大学本部キャンパス内にあり、広々とした快適な環境の中で学習や調査・研究を行うことができます。附属図書館には、図書約33万冊、雑誌約2千タイトルの他、視聴覚資料、マイクロ資料など学習・研究に役立つさまざまな資料を所蔵しています。開館日・開館時間や図書館が提供しているサービスについて、詳しくは図書館ホームページで確認してください。

1階には参考図書や印刷教材などが配架されています。映像音響資料室には放送授業のCD、DVDが備えられており、個人ブースで視聴することができます。授業の再視聴や先取り学習にも利用できます。カウンターでは図書の貸出・返却、予約・取寄図書の受け取り、各種申し込みの受付の他、文献の探し方などの相談をすることができます。図書館をご利用の際は学生証を持参してください。

2階には一般図書と雑誌バックナンバーなどが配架されています。図書は主題を表す請求記号の順に配架されていますので、お目当ての本を見つけたらその周りもご覧ください。新たな本との出会いがあるかもしれません。一人で使用する研究個室では、落ち着いた環境でじっくり研究に取り組むことができます。

3階には新着雑誌と文庫・新書などの小型本が配架されています。ちりめん本や古地図、幕末から明治初期の古写真など、後世に継承する価値があると認められる貴重資料も所蔵しており、その一部を展示コーナーで見ることができます。

また、3階にはグループ視聴室と演習室があり、グループで学習することができます。学生、教職員が2名以上含まれるグループで利用してください。研究個室、グループ視聴室、演習室の利用を希望される方は、カウンターに申し込みをしてください。予約は2件まで、1ヶ月前から申し込みが可能です。

PCを持参して使用したい場合は、館内の決められた場所で使用してください。なお、インターネット接続環境は提供しておりません。インターネットを使用したい場合は、館内にあるキャンパスネット用のPCを使用してください。

ご自宅ではインターネットを利用して文献検索や電子ジャーナル、電子ブックの閲覧をし、図書館では実際に手にとって確認するなど、状況に応じて各種ツールを使いこなして、日々の学習・研究をさらに充実したものにしてください。

附属図書館外観



附属図書館1階



2階書架



展示コーナー



研究個室



演習室



蔵書カードを想う

附属図書館長
大学院（文化科学研究科）
人文学プログラム教授

吉田 光男



このところ図書館の蔵書カードの肩身が狭くなっています。そんな古典的なものに頼らないで、OPACなどを駆使すれば、ごく短い時間で、日本はもとより世界各図書館の蔵書調べが可能となったからです。以前は、うまく冊子体の蔵書目録が利用できればよいのですが、そうでないと現地に出かけて蔵書カードで調べることになりました。それが空振りに終わった時の徒労感には大きなものがありました。これも勉強のうちなのですが、やはりなけなしの時間と資金を費やしたあげくであるから大いに落胆したものでした。

日本最大の図書館である国立国会図書館の場合、明治時代から時期ごとにさまざまな目録が作られていて、これらがなかなか手に入りません。いきおい、直接出かけて調べることになるのですが、これがけっこう難物です。ある程度の書名や著者名がわかっても、時代ごとに分類方法や分類記号そのものが変わっていますので、いくつかの蔵書カードボックス群を渡り歩く羽目になります。これが結構な時間を食ってしまいました。最低限の書誌情報どころか、そもそも原本の有無さえもわからない場合にかかる手間は大変なものになる。しかも必要とする本にたどり着いても、利用者が多いので、閲覧申請してから出庫されるまで時間がかかるし、閲覧冊数も限定されている。効率的に利用するためには多くの工夫が必要となります。これが秘伝のように先輩から伝えられていました。ところが、現在、国会図書館のホーム

ページに行けば、自宅からでも全蔵書が簡単に検索できるし、古い文献に関してはPDFによる公開もはじまりました。

では、蔵書カードなどというアナログ時代の「遺物」はもはや必要のないものになったのでしょうか。某図書館で資料調査をするために、蔵書カードで検索していた時のことです。カードには、目録やデータベースで公開されている以外の情報がかなり多数、記入されていることに気がつきました。たとえば、メモのように、研究費で購入した教員の名前や購入価格、時によっては購入書店やその時の事情まで書かれていました。あるいは、ペン書きのデータを見ると、インクの色の違いや、書き手の違いまで読み取ることができます。また、その紙質は時代を反映しているので、いつごろ作成されたものか、あるいは修復したり複製したりしたものかまでわかることがあります。蔵書カードを通して図書館や蔵書の歴史まで読み取れるというのを持論としています。学生のころ、歴史学研究的師匠方から、「歴史資料は五感を働かせて読み取れ」と教え込まれました。手触りや匂いやその他諸々も重要な情報なのであり、資料は文化そのものだというのがその教えの根幹です。本を舐めてみると言わんばかりの勢いです。実際に本を舐めて味を確かめていた方もおられたようです。まさに「時代の味」そのものです。

蔵書カードも一種の歴史資料です。これが完全にデジタル化された時、どこに五感を働かせたらよいのだろうか、と私は考え込んでしまいます。IT化することで蔵書カードが場所塞ぎをするだけの無用の長物視されることに危機を感じています。各地の図書館を訪問するたびに、蔵書カードの重要性について強調しているのですが、いずれも同じスペース不足なので、わかっちゃいるけどね、という状態なのです。スペース不足は文化を壊すと嘆いている今日このごろです。



文献情報等探索ツール一覧表

このガイドに掲載の情報探索ツール(Webサイト)やページ数の都合で紹介できなかったツールを一覧表にまとめました。放送大学で契約しているため利用できるものと、一般に無料公開されているものがありますので、それぞれ、ご利用の際は注意してください。

この表にあるデータベース等については、附属図書館ホームページ内からアクセスできます。

(<http://lib.ouj.ac.jp/search/e-resource.html>)

※この一覧表に書かれている情報は、2015年1月30日時点での情報であり、その後、変更になる場合があります。

●一覧表中の表現

データベース名の()内は正式名称や別名称

DB…データベース

学内限定…放送大学キャンパス内だけの利用となります

リモート…リモートアクセスのサービスを利用して自宅等のキャンパス外から利用できます

無料公開…一般に無料公開されています

参照頁…本書で紹介しているページがある場合はページ数が表示されています

〈全分野〉

データベース等/Webサイト名	形態	分野	内容	参照頁
CiNii Articles	DB リモート	全分野 国内	・国内学協会雑誌、研究紀要の論文検索可能 ・引用・被引用情報あり	P.17-19
Directory of Open Access Journals(DOAJ)	DB 無料公開	全分野 世界	・オープンアクセス(無料)電子ジャーナルの論文検索・閲覧が可能	P.15
Google Scholar	検索エンジン 無料公開	全分野 世界	・世界の学位論文含む学術論文の検索可能	P.9
JAIRO	DB 無料公開	全分野 国内	・国内学術機関リポジトリに蓄積された論文等の検索が可能	P.32
国立国会図書館サーチ	DB 無料公開	全分野 国内	・検索対象は、国立国会図書館、都道府県立図書館や大学図書館の蔵書、デジタル資料のデータベースなど ・あいまいな表現から資料を探す機能や、英語や中国語・韓国語の翻訳機能など多様な機能あり	—
放送大学ディスカバリーサービス	ディスカバリーサービス リモート	全分野 世界	・放送大学がアクセス可能なデータベースを一度に検索できるサービス ・検索から(閲覧可能な資料は)本文の表示まで可能	P.4-8

〈人文・社会科学分野〉

データベース等/Webサイト名	形態	分野	内容	参照頁
ERIC(EBSCOhost)	DB リモート	教育学 世界	・教育学分野世界最大のデータベース ・雑誌論文、図書、研究報告書、カリキュラム資料、会議録等の検索	—
特許情報プラットフォーム(J-PlatPat) *2015/3/20 IPDL(特許電子図書館)が終了	DB 無料公開	特許情報 国内	・明治以来、特許庁が発行してきた特許・実用新案・意匠・商標に関する公報類や出願審査状況が検索可能	—
日経 ValueSearch	DB 学内限定	新聞・雑誌・ビジネス関係の各種情報 国内	・企業・財務情報、経済・業界統計、日経ニュース・記事などが検索可能 ・同時利用は1名のみ	—
日本における中東研究文献DB	DB 無料公開	中東地域・イスラム研究 国内	・1989年以降に日本で刊行された中東地域やイスラームに関する研究文献と、日本人編著の国外出版物も検索可能 ・日本中東学会が運営	—
法律判例文献情報(D1-law.com)	DB 学内限定	法律 国内	・1982年以降に刊行された法律関連文献(定期刊行物または図書)と判例集の書誌情報を検索可能 ・同時利用は1名のみ	—

〈自然科学分野〉

データベース等/Webサイト名	形態	分野	内容	参照頁
PubMed	DB 無料公開	医学 世界	・医学最大のデータベース ・1950年以降の世界の医学関係の雑誌の論文検索	P.14-15
zbMATH	DB 一部無料公開	学術雑誌 数学 世界	・ヨーロッパ数学会が中心となり、数学、統計学、 コンピューターサイエンスはじめ、数学に係わる 応用領域の文献を収録 ・検索結果の上位3件まで無料公開	P.10、15

〈雑誌、図書、新聞等の全文情報〉

データベース等/Webサイト名	形態	分野	内容	参照頁
arXiv	DB 無料公開	学術論文 数学など 世界	・物理学、数学、計算機科学、量的生物学などの プレプリントを含む様々な論文が検索可能 ・コーネル大学が運営	P.10
Cambridge Journals Online	DB リモート	学術雑誌 人文・社会科学 世界	・Cambridge University Pressが提供する雑誌の 論文のうち、HSS(人文・社会科学分野)パッケージの 195タイトル(2014/12/1現在)について全文を閲覧可能	P.13
IEEE	DB リモート	学術雑誌 情報工学、 電気・通信工学 世界	・IEEE Computer Society が発行するコンピュータ サイエンスとコンピュータ工学に関する定期刊行物 31タイトルの1968年から最新号までを閲覧可能	—
J-STAGE	DB 無料公開	全文野 国内	・科学技術振興機構(JST)提供 ・国内の学会が発行する電子ジャーナルを検索・閲覧が 可能(全文は「FREE」となっているものが無料公開)	—
JSTOR	DB リモート	学術雑誌 人文科学等 世界	・最新号ではなく、概ね1年から5年前に出版された 学術雑誌のバックナンバー ・本学では、経済学、歴史学、政治学、社会学、言語学、 財政学、数学、環境学など15分野175タイトルが利用可能	P.13
Manapio	リポジトリ 無料公開	学内	・放送大学の所属教員等の著作物や、成果報告書、貴重書、 博士論文等を検索・閲覧可能	P.32
Maruzen eBook Library	DB リモート	図書 国内	・丸善株式会社が提供する電子書籍サービス (日本の学術書籍) ・同一タイトルは同時に1名のみ利用可能 ・本文の印刷・保存は60ページまでの制限あり	P.25
NetLibrary(EBSCOhost)	DB リモート	図書 世界	・EBSCO社が提供する電子書籍サービス (日本および海外出版物) ・同一タイトルは同時に1名のみ利用可能 ・本文の印刷・保存は60ページまでの制限あり	P.24
OALster	DB 無料公開	学術雑誌等 全分野 世界	・世界各国の大学等に蓄積された学術情報 (学術雑誌論文、学位論文、研究紀要、研究報告書)が 検索可能 ・OCLCが運営	—

Project Euclid	DB 無料公開	学術雑誌 数学 世界	・数学・統計学分野のオンライン出版プラットフォーム ・コーネル大学図書館とデューク大学図書館が共同開発 ・  のマークがついているものは全文閲覧可能	P.10
ScienceDirect	DB リモート	学術雑誌 自然・人文・社会科学 世界	・Elsevier社が提供する学術雑誌の約1,900タイトルが閲覧可能 ・世界最大級の学術雑誌の全文データベース	P.11-12
SpringerLink	DB リモート	学術雑誌・図書 世界	・Springerグループが提供する学術雑誌約1,700タイトル(1997年以降)が閲覧可能 ・レクチャーノートシリーズを含むSpringer社の電子ブック約2,800タイトル(2005-2012年出版)が閲覧可能	P.13、25
聞蔵Ⅱビジュアル	DB リモート	新聞・雑誌 国内	・1879(明治12)年の創刊号からの朝日新聞の記事や「AERA」、「週聞朝日」などの雑誌も検索可能 ・同時利用は2名まで	—
日経BP検索サービス	DB 学内限定	雑誌 ビジネス等 国内	・日経BP社などが発行する雑誌記事、企業や官公庁/地方自治体の発表するリリースなどの検索・閲覧が可能 ・年間での閲覧数の上限あり	—

〈事典・辞典〉

データベース等/Webサイト名	形態	分野	内容	参照頁
ジャパンナレッジLib	DB リモート	事典・辞典 国内	・百科事典・辞典・現代語事典など52種類のコンテンツが利用可能 ・同時利用は4名まで	P.20

〈統計〉

データベース等/Webサイト名	形態	分野	内容	参照頁
e-Stat(政府統計の総合窓口)	DB 無料公開	統計 国内	・日本の各府省の統計データをキーワード・分野・機関名から探す。初心者向けの各種ナビゲート機能あり	P.21-22

〈公募助成金検索〉

データベース等/Webサイト名	形態	分野	内容	参照頁
KAKEN 科学研究費助成事業データベース	DB 無料公開	全分野	・文部科学省と日本学術振興会が交付した科学研究費補助金の採択課題と研究成果の概要(研究実績報告、研究成果概要)を収録したデータベース	—
厚生労働科学研究成果 データベース	DB 無料公開	医学 公衆衛生学	・厚生労働科学研究費補助金等で実施した研究報告書の概要版および報告書本文を収録したデータベース	—
(公財)助成財団センター 助成金情報	DB 無料公開	全文野 国内	・助成プログラム約3,000件を収録したデータベース ・事業形態や事業分野、募集時期、キーワードによる検索が可能	—

〈研究者・研究情報検索〉

データベース等/Webサイト名	形態	分野	内容	参照頁
J-GLOBAL	DB 無料公開	全文野 国内	・科学技術振興機構(JST)提供 ・研究者情報、文献、企業情報、特許など多様な情報とリンクして、新しい発想やつながりを探す検索	—
researchmap	DB 無料公開	人名 国内	・国内の大学等の機関情報や研究者情報などのデータベース ・日本の研究者総覧の中では最大級	—

〈図書、雑誌等所蔵検索〉

データベース等/Webサイト名	形態	検索対象	内容	参照頁
CiNii Books	横断検索 無料公開	国内の 大学図書館等	・全国約1,200の大学図書館などが所蔵する 約1,000万件のデータが検索可能	P.31
NDL-OPAC (国立国会図書館蔵書検索)	所蔵検索 無料公開	国会図書館	・国立国会図書館所蔵資料を検索可能 ・国立国会図書館編集の「雑誌記事索引」を検索可能	P.31-32
カーリル	横断検索 無料公開	国内の図書館	・全国の図書館(公共図書館、大学図書館など)の 蔵書情報と貸出状況を簡単に検索できるサービス ・地名を選んだ検索が可能	P.31
放送大学OPAC	所蔵検索	放送大学	・放送大学附属図書館や各学習センター図書室の 所蔵資料が検索可能 ・附属図書館(千葉市)所蔵資料予約、文献複写、 相互貸借等の申込が可能	P.27、30

参考文献

【図書】

高柳秀明、柳沼良和. 研究のためのICT活用. 東京, 一般財団法人放送大学教育振興会, 2013.

【Webサイト】

"東北大学生のための情報探索の基礎知識シリーズ". 東北大学附属図書館.
http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/supp/?cat_id=3, (参照 2014-12-03).

"参考文献の役割と書き方, 科学技術情報流通技術基準(SIST)の活用". 科学技術振興協会.
http://sti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf, (参照 2014-12-03).

"科学技術情報流通技術基準, 参考文献の書き方". 科学技術振興協会.
http://sti.jst.go.jp/sist/handbook/sist02_2007/main.htm, (参照 2014-12-03).

"SISTをみる". 科学技術振興協会. <http://sti.jst.go.jp/sist/perusal/index.html>, (参照 2014-12-03).

"SIST科学技術情報流通技術基準". 科学技術振興協会. <http://sti.jst.go.jp/sist/index.html>, (参照2014-12-03).

画像転載

"政府統計の総合窓口(e-Stat)". 独立行政法人統計センター. <http://www.e-stat.go.jp/>, (参照2014-12-03).

執筆者

*五十音順で記載しています。

青山 昌文 石川 瑞穂 石崎 克也 後宮 優子 奥村 小百合 奥村 洋子 倉光 修
坂井 素思 高橋 秀明 滝浦 真人 戸ヶ里 泰典 福井 啓介 吉田 光男 米田 奈穂



〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
<http://lib.ouj.ac.jp/>